

東京放射線

2017年1月号

Vol.64 No.746



公益社団法人 東京都診療放射線技師会
<http://www.tart.jp/>

卷頭言	年頭所感	篠原健一
会告	新春のつどい	
新春企画	第9回MRー集中講習会	
お知らせ	第62回日暮里塾ワンコインセミナー	
平成28年度第12地区研修会	平成29年新春企画 新春座談会	
報告	平成27年度新人奨励賞 受賞報告	小平彩加
平成27年度新人奨励賞 受賞報告	平成27年度新人奨励賞 受賞報告	土谷健人
研修会等申込書		

謹賀新年

平成29年 元旦

本年もよろしくお願ひいたします

診療放射線技師 業務標準化宣言

いま我が国では「安心で安全な医療の提供」が国民から求められている。そして厚生医療の基本である「医療の質の向上」に向けて全ての医療職種が参加し、恒常的に活動をする必要がある。

私達が携わる放射線技術及び医用画像技術を含む診療放射線技師業務全般についても、国民から信頼される普遍的な安全技術を用いて、公開しなくてはならない。そして近年、グローバルスタンダードの潮流として、EBM (Evidence Based Medicine)、インフォームドコンセント、リスクマネジメント、医療文化の醸成、地球環境保全なども重要な社会的要項となっている。

公益社団法人東京都診療放射線技師会では、『国民から信頼され選ばれる医療』の一員を目指し、診療放射線技師の役割を明確にするとともに、各種業務の標準化システム構築を宣言する。

診療放射線技師業務標準化には以下の項目が含まれるものとする。

1. ペイシェントケア
2. 技術、知識の利用
3. 被ばく管理（最適化／低減）
4. 品質管理
5. 機器管理（始終業点検／保守／メンテナンス）
6. 個人情報管理（守秘／保護／保管）
7. 教育（日常教育／訓練／生涯教育）
8. リスクマネジメント
 - ～患者識別
 - ～事故防止
 - ～感染防止
 - ～災害時対応
9. 環境マネジメント（地球環境保全）
10. 評価システムの構築

公益社団法人 東京都診療放射線技師会

スローガン

チーム医療を推進し、
国民及び世界に貢献する
診療放射線技師の育成

2017年
JAN
CONTENTS

目次

謹賀新年	1
診療放射線技師業務標準化宣言	2
巻頭言 年頭所感	4
会告1 新春のつどい	5
会告2 第9回MRI集中講習会	6
会告3 第62回日暮里塾ワンコインセミナー	7
会告4 平成28年度城西支部研修会	8
会告5 第15回ウインターセミナー	9
会告6 平成28年度第6回業務拡大に伴う統一講習会	10
会告7 第63回日暮里塾ワンコインセミナー	12
会告8 第6地区研修会(第64回日暮里塾ワンコインセミナー合同開催)第6地区・学術教育委員会	13
会告9 平成28年度SR推進委員会研修会	14
お知らせ1 平成28年度第12地区研修会	15
お知らせ2 第16地区勉強会(TART・SART地区合同)	16
お知らせ3 平成28年度第8地区研修会	17
お知らせ4 平成28年度第9地区研修会	18
お知らせ5 平成28年度第5地区研修会	19
平成29年新春企画 新春座談会	20
平成27年度新人奨励賞 受賞報告	小平彩加 26
平成27年度新人奨励賞 受賞報告	土谷健人 33
連載	
こえ	
・平成28年度城南支部研修印象記	森川結菜 38
・中央区健康福祉まつりに参加して	田辺清菜 39
・中央区健康福祉まつりを振り返って	杉智子 39
・城北支部研修会に参加して	菅谷正範 40
・城北支部研修会を企画して	高橋克行 41
パイプライン	
・平成28年度東京都がん検診センター 第2回乳がん検診従事者講演会	42
平成28年1~11月期会員動向	45
平成28年度第8回 理事会報告	46

Column & Information

・イエローケーキ	45
・学術講演会・研修会等の開催予定	44
・求人情報	50
・研修会等申込書	51

2017年の表紙

日本人にとって特別な花である「桜」。その代表のソメイヨシノは、東放技の事務所がある日暮里のすぐ近く、駒込が発祥です。ソメイヨシノが全国に広まったように、有益な情報を日暮里から広く発信したいという思いで、今年の表紙はソメイヨシノをイメージした色に致しました。

本年もより一層のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

編集委員会

卷頭言



年頭所感

会長 篠原健一

平成29年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申しあげます。

平素は本会事業の推進につきまして、ご理解ご協力をいただき深く感謝申しあげます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

年頭所感なので新年のご挨拶から入りましたが、実はこの原稿を書いているのは、巷ではそろそろ忘年会が始まるというような時期です。私はよく“忘年会”ではなく“望年会”にしようという話をします。希望、願望、要望、遠望、有望、切望、待望、展望、熱望、大望…。年が明け、皆さまはこの年にどのような「望」で設計図を思いえがいているのでしょうか。

昨年も内外に大きなできごとがありました。熊本地震、英国のEU離脱選択、リオ五輪・パラリンピック、築地市場豊洲移転問題、ISRR (in Seoul)、3年連続の日本人ノーベル賞受賞、米国大統領選挙etc。今年はどのような年になるのか、本会の事業においては失望、絶望とならないよう、前掲の「望」が膨らむ年としたいと思っています。

2年後は関東甲信越診療放射線技師学術大会東京大会、3年後は東京五輪/パラリンピック開催・本会創立70周年（法人化40周年）…、また一つ大きくカウンターが動きました。一年はあっという間に過ぎていきます。これらについて、昨年の年頭所感や事業計画などでは、「さまざまなことがスタートする年」と書きましたが、今年はさらに具体性を持って準備を加速しなければなりません。国際化推進については、首都東京の職能団体として果たすべき使命を担うべく一つの手段として、ソウル特別市放射線士会と本会とのあいだに「学術交流協定」を締結しました。一昨年のAACRT (in Singapore) で初めて意見交換し、昨年3月及び10月のISRR-ソウル大会での話し合いで合意、同12月に協定書調印となりました。ISRRでは、本会副会長をも含む多くの日本人演者の姿を目にし、今後の展望に大きな期待を持ったところです。

業務範囲拡大に伴う統一講習会も年度内にすでに4回実施してきました。3月までにあと2回開催いたします。本会による当該講習会の実施済み人数は、会員のみなさまのご理解ご協力により、他道府県に比べて一番多い数値となっています。立地上本会会員以外の多くの方にも受講していただきました。これは大変ありがたいことですが、東京都そして南関東地域は日放技内でも会員数の多い地域です。南関東地域は全国の約1/7の会員が在籍しています。東京都だけでも約1/14です。受講者数はトップですが、会員数に対する受講率は上位ではありません。引き続き皆さまのご協力をお願いする次第です。国民の皆さまの医療安全の点を見すえて、更なる業務拡大に向けて努力してまいりますのでよろしくお願ひいたします。

さて、近年は日本人のノーベル賞受賞の話題を書かせていただくことが増えました。科学（サイエンス）の各分野で日本人が成果を上げていることは実にうれしいかぎりです。池上彰さんの「はじめてのサイエンス」（NHK出版新書）に、「科学の第一歩は“疑うこと”からはじまる」と書いてありました。理系の方の思考法のようです。私はどちらかというと文系に寄っている方ですが、甘いことばともうけ話を疑うことは他に引けを取らない（はずだ）ので、これからは“疑い深い”のではなく“科学的に考えてみた”ということにしようと思います。

東京都診療放射線技師会が公益社団法人に移行したのは、私が本会をお預かりして1年後のことでした。間もなく5年が経過します。当時より会員数も200人以上増え、総会方式・地区制度・会務運営など再整備の検討が必要なものも出てまいりました。現在、定款諸規程検討委員会で審議を重ねているところです。従来の仕組みを疑ってみると=科学的に考えてみることから未来志向の改革が生まれると思っています。

今年も、すばらしい年となりますよう心よりお祈り申し上げ、会員の皆さまの一層のご理解・ご協力をよろしくお願ひいたします。

会 告

1

「新春のつどい」のご案内

年初めの恒例となっております、本会主催による「新春のつどい」開催のご案内を申し上げます。新春を迎えるにあたり、日頃ご交説を頂いております放射線関連・学校教育機構・関係諸団体・本技師会各位が一堂に会し、新年の抱負を語り、また、情報交換の場としてご歓談いただき、親交を深めていただきたいと存じます。お誘い合わせの上、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

記

開催日時：平成29年1月13日(金) 18時30分～20時00分
(受付 18時00分より)

開催場所：「ホテルラングウッド」 2階 凤凰の間
荒川区東日暮里5-50-5 Tel 03-3803-1234
JR日暮里駅南口下車 徒歩1分

次 第

- 1) 開会の辞
- 2) 会長挨拶
- 3) 来賓挨拶
- 4) 乾杯
- 5) 懇親（名刺交換）
- 6) 閉会の言葉



会 費：6,000円

新卒かつ新入会員*の方は無料です。奮ってご参加ください。

*新卒かつ新入会員とは、技師学校卒業年に技師免許取得し本会へ入会した会員をいう
問い合わせ：公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上



第9回MRI集中講習会

下記の要領にて第9回MRI集中講習会を開催いたします。

各講義では専門試験問題の解説も含めて行います。

講義には本講習会用に出版した「MRI集中講習（改定版）」をテキストとして使用します。（参加者には無料配布）多くの方の参加をお待ちしております。

～プログラム～

14:00～15:15 原理（基礎）および安全管理（専門試験問題含む）

講師：杏林大学医学部付属病院 宮崎 功 氏

15:20～16:20 パルスシーケンスおよび高速撮像法（パラレルイメージング）（専門試験問題含む）

講師：虎の門病院 高橋 順士 氏

16:30～17:30 アーチファクト（専門試験問題含む）

講師：公立福生病院 野中 孝志 氏

17:30～18:30 脂肪抑制（専門試験問題含む）

講師：東京慈恵会医科大学附属第三病院 北川 久 氏

記

日 時：平成29年1月14日（土）14時00分～18時30分（受付開始13時30分）

場 所：公益社団法人東京都診療放射線技師会研修センター

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-22-1 ステーションプラザタワー505

ア クセス：JR日暮里駅北口改札 東口方面より徒歩3分

受 講 料：会員3,000円、非会員10,000円（当日徴収）

※講義に使用するテキストはMRI集中講習（改訂版）を使用（東放技配布）

申込方法：東放技ホームページ（<http://www.tart.jp/>）の研修会申し込みフォーム（研修会申し込み先は“学術教育委員会”を選択）からお申し込みください。または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

定 員：50名（定員になり次第締め切ります）

カウント付与：日本診療放射線技師会生涯教育4.0カウント付与

問い合わせ：学術教育委員長 市川重司 E-Mail：gakujitu@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上

第62回 日暮里塾ワンコインセミナー～入会促進セミナー～ 「学術教育が選んだ発表演題」

恒例となりました「学術教育が選んだ発表演題」です。平成28年度に発表された演題の中から興味深いものを厳選し、再度発表していただきます。研究成果を発表することは、われわれ医療人におかれた責務でもあります。参加できなかった方、参加していたが聞けなかったという方、再度聞きたい方など、多くの方の参加お待ちしております。

さらに毎年この演題群の中から学術奨励賞、新人奨励賞を選出しております。ぜひ参加していただき発表演題のアンケートにご協力をお願ひいたします。

今回は入会促進セミナーということで参加費無料となっております。

1. 当院におけるX線CT検査時のペースメーカー対応について

日本大学医学部附属板橋病院 市川 篤志 氏

2. 乳幼児胸部撮影における小児固定具使用の工夫

公立福生病院 山崎 綾乃 氏

3. 頭部領域におけるSE型radial scan (RADAR-SE) の有用性の検討

東邦大学医療センター大橋病院 南山 諒輔 氏

4. 当院における放射線科疑義照会の取り組みについて (システム構築)

公益財団法人東京都保健医療公社 東部地域病院 今井 貴裕 氏

5. 当施設における被ばく相談の現状と今後の課題

順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター 萩原奈津美 氏

6. 上肢血管閉塞に対するコーンビームCTの有用性

国立国際医療研究センター病院 若松 和行 氏

7. 腰椎MRIにおける側臥位撮像の有用性の検討

東邦大学医療センター大森病院 富永 良英 氏

8. 低管電圧撮影と逐次近似再構成法を利用した3D画像改善の試み

昭和大学江東豊洲病院 平野 高望 氏

9. 散乱X線補正処理を用いた胸部ポータブル撮影における適正EI値の基礎検討

国立がん研究センター中央病院 鳥居 純 氏

記

日 時：平成29年1月19日(木) 19時00分～20時30分

場 所：公益社団法人東京都診療放射線技師会研修センター

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-22-1 ステーションプラザタワー505

ア クセス：JR日暮里駅北口改札 東口方面より徒歩3分

受 講 料：無 料

申込方法：東放技ホームページ (<http://www.tart.jp/>) の参加申し込みフォーム (研修会申し込み先は“学術教育委員会”を選択) からお申し込みください。または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

カウント付与：日本診療放射線技師会生涯教育1.5カウント付与

問い合わせ：学術教育委員長 市川重司 E-Mail : gakujitu@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX : 03-3806-7724

以上

会 告

4

平成28年度 城西支部研修会

テーマ：「ティーチングファイル－ここがポイント－」 脳外科医が求める画像診断

講 師：東京医科大学病院 脳神経外科 田中 悠二郎先生

本年度は頭部画像を取り上げます。実際に手術・治療をする脳神経外科医が何を見て、何を必要としているのかを教えていただきたいと思います。この領域をCT、MRI画像を中心に解剖や疾病について基礎から学びたいと思います。今回、開催することによって皆さまが興味を持ち、講習翌日から頭部画像が楽しく見られるように一緒に勉強をしたいと思います。

病院、クリニック、検診施設の方など多くの方々の参加をお待ちしています。

記

日 時：平成29年2月10日(金) 19時00分～20時30分 (受付開始：18時30分～)

場 所：東京医科大学病院 研究教育棟3階第1講堂

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1

ア クセス：丸の内線西新宿駅より 徒歩1分、JR新宿駅西口より 徒歩11分

受 講 料：診療放射線技師1,000円

新卒かつ新入会員*、一般ならびに学生 無料

申込方法：東放技ホームページ (<http://www.tart.jp/>) の参加申し込みフォーム (研修会申し込み先は“城西支部”を選択) からお申し込みください。または下記メールアドレスへ、件名『城西支部研修会』にて氏名(ふりがな)、施設名、所属地区、会員(日放技番号)・非会員、返信先メールアドレスを記載の上、送信をお願いします。

問い合わせ：城西支部委員会 E-Mail : shibu_jyousai@tart.jp

第3地区委員長 平瀬繁男

第9地区委員長 市川篤志

第10地区委員長 澤田恒久

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX : 03-3806-7724

以上

*新卒かつ新入会員とは、技師学校卒業年に技師免許取得し本会へ入会した会員をいう

第15回 ウィンターセミナー

テーマ 「散乱線補正処理技術」

昨今、一般撮影領域で散乱線を低減させる画像処理が普及し使用されています。
今回はメーカー、ユーザーから講演を頂き、知識向上をして頂きたいと思います。
さらに実際に各施設での導入前後の使用状況の報告およびカセット等の展示も予定いたします。
多くの方の参加をお待ちしております。

～プログラム～

15:00-16:00 メーカー技術解説

富士フィルムメディカル株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
コニカミノルタ株式会社

16:10-17:10 使用経験報告

富士フィルムメディカルユーザー	日本大学医学部附属板橋病院	比内聖紀 氏
コニカミノルタユーザー	東京女子医科大学病院	森田康介 氏
キヤノンユーザー	北里大学メディカルセンター	今花仁人 氏

17:20-17:30 使用状況（撮影条件と処理パラメーター）

報告者	公立福生病院	野中孝志 氏
-----	--------	--------

17:30-18:00 質疑応答（ディスカッション）

記

日 時：平成29年2月18日（土）15時00分～18時00分

場 所：東京医科大学病院 教育研究棟3階第1講堂

ア クセス：JR新宿駅西口下車 徒歩約15分

都営大江戸線 都庁駅前下車 徒歩約7分

東京メトロ丸の内線 西新宿駅下車 徒歩約1分

定 員：50名 ※講義に使用するテキストはMRI集中講習（改訂版）を使用

参 加 費：会員1,000円、非会員5,000円

新卒かつ新入会員※ならびに学生 無料

申込方法：東放技ホームページ（<http://www.tart.jp/>）の参加申し込みフォーム（研修会申し込み先は“学術教育委員会”を選択）からお申し込みください。または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

カウント付与：日本診療放射線技師会生涯教育カウント2.5ポイント付与

問い合わせ：学術教育委員長 市川重司 E-Mail：gakujiyu@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上

※ 新卒かつ新入会員とは、技師学校卒業年に技師免許取得し本会へ入会した会員をいう



平成28年度第6回業務拡大に伴う統一講習会

主催：公益社団法人日本診療放射線技師会 実施：公益社団法人東京都診療放射線技師会

診療放射線技師法が平成26年6月18日に一部改正され、平成27年4月1日施行されました。具体的には、CT・MRI検査等での自動注入器による造影剤の注入、造影剤注入後の抜針・止血、下部消化管検査の実施（ネラトンチューブ挿入も含めて）、画像誘導放射線治療時の腸内ガスの吸引のためのチューブ挿入であり、診療放射線技師の業務内容が拡大しました。以上の業務を行うための条件として、医療の安全を担保することが求められています。この業務拡大に伴う必要な知識、技能、態度を習得することを目標とし、“業務拡大に伴う統一講習会”と称し、2日間にわたり実施することとしました。本講習は厚生労働省と公益社団法人日本診療放射線技師会が検討したカリキュラムに従い、都道府県放射線技師会が講習会を運営し、一定レベルの講習会を全ての診療放射線技師が受講できる環境を提供することを目的としています。今年度5回実施予定をしておりましたが、需要を鑑みの6回目として開催致します。

記

第6回

日 時：平成29年2月12日（日）9時30分～17時40分（受付9時00分から）
平成29年2月19日（日）8時30分～17時40分

場 所：公益社団法人東京都診療放射線技師会研修センター
東京都荒川区西日暮里2-22-1 ステーションプラザタワー505

ア クセス：JR日暮里駅北口改札 東口方面より徒歩3分

募 集 人 数：48名

申込み期間：平成28年12月19日～平成29年1月29日

受 講 料：会 員 15,000円、非会員 60,000円

但し、各種講習受講者減免として

会 員 静脈受講者：13,000円、注腸受講者：5,000円、静脈注腸受講者：3,000円

非会員 静脈受講者：50,000円、注腸受講者：35,000円、静脈注腸受講者：15,000円

注）講義は免除対象とするが、実習及び確認試験は免除対象外とする

申込方法：JART情報システム内のイベント申込メニューから申し込むこと

注）東放技事務局および東放技HPからのお申し込みはできません

受講料振込等：申し込み後、日放技より振込み先の案内があります

講習会修了基準：次のいずれかに該当する場合は、修了とみなしません

ア) 講習時間15単位（1単位50分）に対し、欠課の合計時間が45分を超えた場合

イ) 欠課が15分を超えたコマが1つ以上あった場合

生涯学習カウント：修了者は「学術研修活動」カウントが付与されます

以上

プログラム

12日(日)

公益社団法人東京都診療放射線技師会 実施

時限	時 間		内 容	
	9:00～ 9:20	20	受付	――
	9:20～ 9:30	10	オリエンテーション	
1	9:30～10:20	50	静脈注射（針刺しは除く）1*	講義
2	10:20～11:10	50	静脈注射（針刺しは除く）2*	講義
3	11:20～12:10	50	静脈注射（針刺しは除く）3*	講義
	12:10～13:10	60	昼休み	
4	13:10～14:00	50	下部消化管 1*	講義
5	14:00～14:50	50	下部消化管 2*	講義
6	15:00～15:50	50	下部消化管 3*	講義
7	15:50～16:40	50	下部消化管 4*	講義
8	16:50～17:40	50	法令	講義

19日(日)

	8:20～ 8:30	20	受付	――
9	8:30～ 9:20	50	IGRT1	講義
10	9:20～10:10	50	IGRT2	講義
11	10:20～11:10	50	IGRT3	講義
12	11:20～12:10	50	下部	実習
13	12:10～13:00	50	IGRT	実習
	13:00～14:00	60	昼休み	
14	14:00～15:00	60	BLS	実習
15	15:10～16:30	80	静脈（抜針）	実習
16	16:30～17:20	50	確認試験	試験
	17:20～17:40	20	修了式	

*受講済みの場合、講義免除対象とする(受講しなくても良い)。ただし実習及び確認試験は免除対象外である。

公益社団法人

東京都診療放射線技師会

Tokyo Association of Radiological Technologists -TART-

[トップページ](#)

[会員の方へ](#)

[事務所概要
アクセス](#)

[会員登録
会員登録](#)

[会員登録
会員登録](#)

[研修会
イベント情報](#)

[リンク](#)

事務所概要・アクセス

事務所概要・アクセス

会員登録

東京都診療放射線技師会について

事務所概要

公益社団法人 東京都診療放射線技師会

<会員登録>

〒116-0013

東京都渋谷区西原町2-22-3 スターションプラザ505号

<電話>・FAX>

(03) 3806-7724

<メール>

tar@tar.jp

<事務所所長の紹介>

月一金 9:30～17:00

土日・日曜・祝日は1月2日・2月9日～1月4日は受け付けておりません。

<会員登録>

JR山手線原宿駅北口より徒歩3分



第63回 日暮里塾ワンコインセミナー

テーマ：明日から役立つ知識 –グリッド (GRID) –

講 師：独立行政法人国立病院機構東埼玉病院 放射線部 副診療放射線技師長 永井 優一 氏

今回は散乱X線除去用グリッドを特集します。

昨今、画像上での散乱線補正処理が行われるようになり、今後使用頻度が減る可能性がありますが、その前に基礎の基礎となるグリッドの原理、役割、種類、性能など学びたいと思います。

多くの方の参加をお待ちしております。

記

日 時：平成29年2月24日(金) 19時00分～20時30分

場 所：公益社団法人東京都診療放射線技師会研修センター

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-22-1ステーションプラザタワー505

ア クセス：JR日暮里駅北口改札東口方面より徒歩3分

受 講 料：会員500円、非会員3,000円

新卒かつ新入会員*、一般ならびに学生 無料

申込方法：東放技ホームページ (<http://www.tart.jp/>) の参加申し込みフォーム（研修会申し込み先は“学術教育委員会”を選択）からお申し込みください。または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

カウント付与：日本診療放射線技師会生涯教育1.5カウント付与

問い合わせ：学術教育委員長 市川重司 E-Mail：gakujiit@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上



*新卒かつ新入会員とは、技師学校卒業年に技師免許取得し本会へ入会した会員をいう

第6地区meeting

(第64回日暮里塾ワンコインセミナー合同開催)

テーマ「そうだったのか！基礎知識編（一般撮影・バリウム検査・医療事故）」

今年も第6地区では、東京都診療放射線技師会学術教育委員会と合同勉強会を企画しました。今回のコンセプトは“勉強したくても、なかなかやってない基礎的な勉強会”です。“たくさん撮って身に着けたいけど検査数が少ない、教わりたいけど何からやったらいいかわからない”小規模施設の診療放射線技師の皆さん、こんな風に思ったことはありませんでしたか？また苦手意識を持ってしまってはいませんか？わからないことや、うまく撮るコツは、技師会の先輩に聞けば良いのです。われわれ「第6地区 meeting」ではそれをお教えいたします。一緒になって考えましょう。何かつかんで帰路に着ける会にできるよう頑張ります。是非、一度お越しください。先輩・後輩・他地区・学生の皆さん、分け隔てなく一緒に学びましょう。第6地区委員一同お待ちしております。

プログラム

- | | |
|------------------------------|----------------|
| ◆「そうだったのか！四肢撮影」 | 公立福生病院 市川 重司 氏 |
| ◆「胃・大腸バリウム検査上達へのコツと工夫」 | 東葛病院 安藤 健一 氏 |
| ◆「放射線科内医療事故ディスカッション～情報の共有化～」 | 第6地区委員 |
| ◆「研究報告」 | 中央医療技術専門学校 学生 |

記

日 時：平成29年3月4日（土）16時00分～18時40分（受付開始：15時30分～）

場 所：中央医療技術専門学校 視聴覚室

〒124-0012 東京都葛飾区立石3-5-12

ア クセス：京成押上線「京成立石駅」下車 徒歩7分（各駅停車をご利用ください）

受 講 料：診療放射線技師 500円

新卒かつ新入会員*、一般ならびに学生 無料

申込方法：東放技ホームページ（<http://www.tart.jp/>）の参加申し込みフォーム（研修会申し込み先名は“6地区”を選択）からお申込みください。※当日参加も可能です

問い合わせ：第6地区委員長 高橋克行 E-Mail：area06@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上



*新卒かつ新入会とは、技師学校卒業年に技師免許取得し本会へ入会した会員をいう



平成28年度 SR推進委員会（公益・災害）研修会

テーマ「緊急被ばく医療研修会～3.11を風化させない～」

東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故にあたり、公益社団法人東京都診療放射線技師会では、発災直後の被災地におけるサーベイ活動、都内避難所における放射線サーベイボランティア活動など、放射線専門の職能団体として活動を行いました。これらの活動・経験を語り継ぎ風化させないために、今年度も研修会を企画しました。

今年度は、新たな内容として放射線被ばく、もしくは被ばくの可能性がある傷病者を自施設で受け入れるために必要な知識やスキルを学習します。また、原子力規制委員会から出されている原子力災害対策指針は改正が数多く出されています。その指針を踏まえた講義を行います。皆さまの参加をお待ちしております。

プログラム

時間	タイトル	講師
13:00～13:10	開会の辞	SR推進委員会委員
13:10～14:00	緊急被ばく医療について	
14:10～14:50	養生実習	
15:00～15:50	被ばく傷病者受け入れ実習	
15:50～16:20	質疑応答	
16:20～16:30	閉会の辞	

記

日 時：平成29年3月12日（日）13時00分～16時30分（受付開始12時30分～）

場 所：公益社団法人東京都診療放射線技師会研修センター

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-22-1ステーションプラザタワー505

ア クセス：JR日暮里駅北口改札 東口方面より徒歩3分

定 員：40名（先着順）

受 講 料：会員1,000円、非会員5,000円（当日徴収）

申込方法：東放技ホームページ（<http://www.tart.jp/>）の参加申し込みフォーム（“災害対策委員会”を選択）、
または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

カウント付与：日本診療放射線技師会生涯教育3.0カウント付与

問い合わせ：SR推進委員長 渡辺 靖志 E-Mail：saigai@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上

第12地区研修会

テーマ「救急外傷の一般撮影～基礎知識から救急撮影まで～」

講師：武藏村山病院 放射線科 森 剛 技師長

今回の第12地区研修会のテーマは「救急外傷の一般撮影」です。第12地区の中核病院のひとつである、武藏村山病院放射線科技師長にご講義をしていただきます。ひとことに救急外傷といつても歩行や車椅子、ストレッチャーなどで撮影室に来る場合や、高エネルギー外傷で運ばれてくるなど状態はさまざまです。

今回の研修会は、重症な外傷の撮影というよりも、より身近な1次～2次救急撮影を対象にお話をすすめていただきます。さまざまな関節の撮影は何を診ているのか？ どのような状態が脱臼・骨折なのか？ など、一般撮影の基礎知識から救急への応用撮影までを学びます。新人技師はもちろんのこと、ベテラン技師も再確認のために、ぜひご参加ください。お待ちしております。

記

日 時：平成29年1月26日（木）19時00分～20時30分（受付開始：18時30分～）

場 所：東大和病院 本院7階会議室

ア ク セス：西武拝島線 東大和市駅下車 徒歩12分（西武バス「東大和病院前」下車）

受 講 料：診療放射線技師500円、（当日徴収）

新卒かつ新入会員※、一般ならびに学生 無料

申込方法：東放技ホームページ（<http://www.tart.jp/>）の参加申し込みフォーム（研修会申し込み先は“12地区”を選択）からお申し込みください。または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

問い合わせ：第12地区委員長 鈴木 晋 E-Mail：areal2@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上



※新卒かつ新入会員とは、技師学校卒業年に技師免許取得し本会へ入会した会員をいう

お知らせ 2

第16地区勉強会 TART・SART地区合同

テーマ「骨軟部 撮影セミナー2017～初学者からベテランまで抑えておきたい四肢撮影技～」

記

日 時：平成29年2月18日(土) 9時50分～18時00分
場 所：済生会川口総合病院 講堂(B1) 埼玉県川口市西川口5-11-5
交 通：京浜東北線 西川口駅下車西口より 徒歩約8分
受 講 料：2,000円
申込方法：東放技ホームページ(<http://www.tart.jp/>)の参加申し込みフォーム(研修会申し込み先は“16地区”を選択)からお申し込みください。または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。
問い合わせ：第16地区委員長 工藤年男 E-Mail: areal6@tart.jp
公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX: 03-3806-7724

以上

セッション1 10:00▶11:30	一般演題(各15分)	座長 東京大学病院 国立精神・神経医療研究センター病院 田部井 勝行 釋迦堂 充
①「機能解剖を考える～手関節～」 ②「THA術前計画における股関節30度内旋位PA撮影の検討」 ③「上腕骨顆上骨折症例における再撮影の検討」 ④「ACS患者を対象としたアキレス腱の撮影意義と撮影方法について」 ⑤「誰でも簡単スカイラインビューの実践」 ⑥「Dual Energy CTを用いた乾癬性関節炎の画質評価」		上尾中央総合病院 仲西 一真 さいたま赤十字病院 大河原 侑司 埼玉県済生会川口総合病院 西田 衣里 所沢ハートセンター 柴 俊幸 堀ノ内病院 小池 正行 東京慈恵会医科大学附属病院 宮崎 健吾
セッション2 11:40▶12:40	メーカーセッション「ランチョンセミナー(各20分)」	座長 上尾中央総合病院 滝口 泰徳
①「最新画像処理【ダイナミック処理について】」 ②「ワイヤレスフラットパネルを用いた 四肢撮影への新しいアプローチ」 ③「キヤノンデジタルラジオグラフィCXDIシリーズの紹介」	富士フィルムメディカル株式会社 株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン社 キヤノンライフケアソリューションズ株式会社	宮野 武晴 北中 康友 伊藤 琢也
技師講演 12:50▶13:50		座長 埼玉医科大学病院 高橋 忍
	「撮影から考える(診る)疾患、疾患から考える撮影(読影や撮影の工夫・ポイント)」	
①「大腿骨頸部骨折の撮影・読影ポイント」 ②「技師として手疾患を撮る(診る)」		深谷赤十字病院 坂本 里紗 船橋市立医療センター 石塚 瞬一
セッション3 14:00▶15:00	救急撮影セッション	座長 羽生総合病院 大野 渉
	「明日から実践！～救急撮影の基礎を学び、疑問を解消～」	
①「外傷診療における救急撮影の基礎」 ②「みんなで創ろう、実践的救急撮影法」		さいたま赤十字病院 渡部 伸樹 上尾中央総合病院 内田 瑛基
セッション4 DR 15:10▶16:10	DRセッション	座長 東海大学医学部付属八王子病院 由地 良太郎
①「臨床に適した画像処理選択の基本～四肢撮影を中心～」 ②「線量指標 EI の基礎知識～整形外科領域での活用法～」		埼玉県済生会川口総合病院 森 一也 獨協医科大学越谷病院 高橋 利聰
教育講演 16:20▶17:20		座長 埼玉医科大学病院 岡本 康正
①「骨軟部診断情報研究会での症例検討紹介」 ②「各施設一般撮影領域線量比較の取り組み」		昭和大学歯科病院 石田 秀樹 関東労災病院 若林 一成
特別講演 17:30▶18:30	「(特別講演)」	座長 JR東京総合病院 後藤 太作
	「日々の撮像に活かしたい骨軟部診断の知識～読影医の視点から～」	埼玉医科大学病院 竹澤 佳由 先生

※ 駐車券はございませんので 公共の交通機関をご利用ください

平成28年度 第8地区研修会

①テーマ：「X線の医療応用について」

講 師：作美 明 先生（NTT東日本関東病院 放射線科 医学物理士）

昨今、放射線治療分野において重要な役割を果たしている医学物理士の方に「X線の医療応用」についてお話しいただきます。X線の発生から診断領域・治療領域で、人体の中で起こるX線の相互作用などについて放射線物理の面から解説していただきます。

この機会に気持ちを新たにしてX線について勉強してみてはいかがでしょうか。

②テーマ：「シーメンス社血管撮影装置 Artis Qの使用経験について」

講 師：塚本 篤子 先生（NTT東日本関東病院 放射線部 特別医療技術主任）

NTT東日本関東病院で導入した、最新の血管撮影装置についての紹介と使用経験を話していただきます。また講演後に血管撮影装置および放射線治療装置の見学も予定しています。

記

日 時：平成29年2月25日（土）15時00分～17時00分（受付：14時30分～）

場 所：NTT東日本関東病院 健康管理棟6階会議室 東京都品川区東五反田5-9-22

ア クセス：JR山手線及び東急池上線 五反田駅 徒歩約7分

都営地下鉄浅草線 五反田駅A7出口 徒歩約5分

詳細はHP参照してください <https://www.ntt-east.co.jp/kmc/access/>

受 講 料：診療放射線技師500円

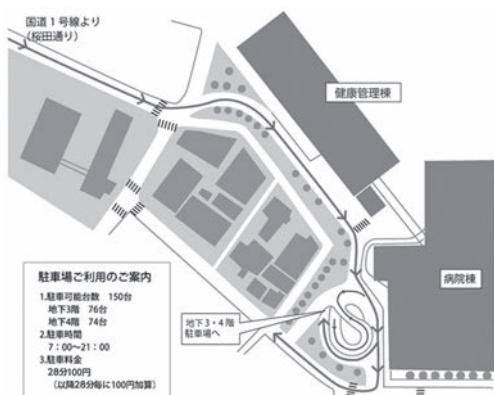
新卒かつ新入会員※、一般ならびに学生 無料

申込方法：東放技ホームページ（<http://www.tart.jp/>）の参加申し込みフォーム（研修会申し込み先は“8地区”を選択）からお申し込みください。または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

問い合わせ：第8地区委員長 鎌田 治 E-Mail：area08@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上



研修会当日は休診日のため、休日夜間
出入口よりお入りください。

順路案内の掲示に従って健康管理棟6階
までお越しください。

※新卒かつ新入会員とは、技師学校卒業年に技師免許取得し本会へ入会した会員をいう

お知らせ 4

平成28年度 第9地区研修会

テーマ「夜勤時における撮影のポイント（基礎編）」

～ CT Angio MRI ～

今回、第9地区では「夜勤時における撮影のポイント（基礎編）」ということで研修会を開催いたします。どこの施設も夜勤時は少人数で勤務され、困った点や疑問に思った点などあるかと思います。必要な基礎知識を実際の症例などと合わせながら解説していく予定です。

多くの皆さまの参加をお待ちしております。

～プログラム～

CT	日本大学医学部附属板橋病院	市川 篤志
Angio	帝京大学医学部附属病院	西郷 洋子
MRI	日本大学医学部附属板橋病院	松田 雅之

記

日 時：平成29年2月28日(火) 19時00分～20時30分 (受付：18時30分～)

会場：板橋区立グリーンホール 東京都板橋区栄町36-1

アクセス：東武東上線「大山」駅 北口から徒歩約5分

都営三田線「板橋区役所前」駅A3出口から徒歩約5分

受講料：診療放射線技師500円

新卒かつ新入会員*、一般ならびに学生 無料

申込方法：東放技ホームページ（<http://www.tart.jp/>）の参加申し込みフォーム（研修会申し込み先は“9地区”を選択）からお申し込みください。または、会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

定 員：50名

問い合わせ：第9地区委員長 市川篤志 E-Mail：area09@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX: 03-3806-7724

以上



※ 新卒かつ新入会員とは、技師学校卒業年に技師免許取得し本会へ入会した会員をいう

平成28年度 第5地区研修会『第5地区のつどい』

テーマ「胸部ポータブルX線画像の読影」

講師：東京大学医学部附属病院 放射線科 大倉 直樹 先生

今年も第5地区において、好評をいただいている地区研修会「第5地区のつどい」を開催致します。この研修会は、演者と皆さまが活発に議論することにより、知識を深めることを趣旨とした勉強会です。

今回は、胸部ポータブルX線画像における読影のポイントなどについて、医師の目線から講演していただきます。胸部ポータブル撮影は新入職員からベテランの診療放射線技師まで多くの方が撮影に携わっていると思います。読影力の向上、撮影体位の検討、再撮影の基準についてなど、翌日からの業務に非常に役立つ講演内容と思われます。一人でも多くの会員の皆さまに参加していただきたく、このテーマで企画しました。

また研修会後は意見交換会ご用意しておりますので、ご参加いただいた皆さまの交流をさらに深めて地域医療の発展に繋げていただければ幸いです。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

記

日 時：平成29年3月3日(金) 19時00分～20時00分 (受付開始18時30分～)

場 所：東京大学医学部附属病院 入院棟A 1階 レセプションルーム

〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1

ア クセス：丸の内線 本郷三丁目駅2番出口 徒歩約10分

大江戸線 本郷三丁目駅5番出口 徒歩約10分

千代田線 湯島駅1番出口 徒歩約15分

受 講 料：診療放射線技師500円、新卒かつ新入会員*、一般ならびに学生 無料

申込方法：東放技ホームページ (<http://www.tart.jp/>) の参加申し込みフォーム (研修会申し込み先は“5地区”を選択) からお申し込みください。または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

※当日参加可能ですが、会場のスペースの関係で事前登録者を優先させていただく場合がございます。

できる限り「事前申し込み」をお願いいたします。

問い合わせ：第5地区委員長 稲毛秀一 E-Mail：area05@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上



①図1の「入院棟A」入口をお入りください。



②図2の「入院棟A 救急入口」から、中扉を通り、1階フロアに入って左側のガラス張りの部屋がレセプションルームです。

* 図1の「入院入口」と、図2の「入院棟A・救急入口」は同じ入口です。

平成29年新春座談会

場所：公益社団法人東京都診療放射線技師会研修センター



後列左より 鈴木雄一 理事、石田秀樹 新副会長
前列左より 白木 尚 副会長、篠原健一 会長

白木副会長：それでは平成29年新春座談会を始めます。

始めに篠原会長よりご挨拶いただきます。

篠原会長：皆さん、新年あけましておめでとうございます。

一同：あけましておめでとうございます。

篠原会長：本年もよろしくお願い致します。年が明けると、大きくカウントが進んで尻に火がつくような気がしますが、また一歩大きく前に進んだと考え、着実に会務を進めてまいりたいと思います。時間は連続しておりますが、すぐ目の前の事に一所懸命に対応しなければなりませんけども、本日は新春座談会ということで未来の話ができればと思っております。よろしくお願い致します。

白木副会長：ありがとうございました。未来というテーマをいただきましたが、まずは本年度新任された石田副会長と鈴木理事に、会員の方々への自己紹介も兼ねて心意気を語っていただきたいと思います。それでは、石田副会長からお願いします。

石田副会長：本年度より副会長を拝命致しました石田秀樹でございます。口腔・顎顔面領域に特化した昭和医大歯科病院に勤めております。以前の職務は、総務理事です。中澤靖夫 東放技前会長の時に一期、篠原



会長になりましてから三期に渡って務めさせていただきました。本年度より副会長の職務ですが、葛西一隆前副会長が17年間務められてきた役職ということで重責ではございますが楽しみながら、そして皆さんにも技師会を楽しんでもらえるように努力してまいりたいと思います。よろしくお願い致します。

白木副会長：ありがとうございました。続いて、鈴木理事お願いします。

鈴木理事：はじめまして。東京大学医学部附属病院の鈴木雄一と申します。本年度より総務委員長ならびに理事を拝命致しました。前職は文京区・北区からなる第5地区の地区委員長を一期務めさせていただきました。本年度から総務委員長を拝命いたしました。今まで地区委員長として、地区活動をメインにやらせて

ただきましたが、今年度より会の中心となる運営をおこなわせていただきますので、まだまだ勝手が違って戸惑うところもありますけども、一日でも早く全力を発揮できるように頑張っていきたいと思っております。よろしくお願ひ致します。

白木副会長：ありがとうございました。新任の副会長と理事から自己紹介をいただきました。それでは本題に入って行こうと思います。年が明けまして、本年とくに強調して進めていきたいことなどありましたらお聞きしたいと思います。まずは篠原会長からお願ひします。

篠原会長：まずは、前年に引き続き統一講習会の受講者数を増やしていきたいと考えています。東京都は一番多くの会員を抱えており、全国トップの受講者数を維持して本年も推進していきたいと思っております。昨年の年頭所感や事業計画にも一部書きましたが、物事の実施は4年前、3年前、2年前からさまざまなことが始まります。昨年はすでに一部のものについては、心づもりができているというか始動したものもありますが、本年はさらに具体化する年であると位置づけています。例えば、2年後の平成31年度関東甲信越診療放射線技師会学術大会は東京都診療放射線技師会が実施担当となっております。3年後の2020年には本会創立70周年・法人化40周年記念行事があります。東京オリンピックも開催され、首都東京の診療放射線技師会としての役割というのもあると思っています。さらに4年後の2021年はAACRT学術大会が日本で開催されることが決まっています。まだ正式には東京で開催することにはなっておりませんが、当然ながら日本でやるとなれば首都東京として直接的または間接的に関わることとなります。こういったことへの準備がかなり現実味を帯びてくるといった年だと思っています。

白木副会長：ありがとうございました。次に私の方から本年特に強調して取り組んでいきたいことは、先ほど会長のお話にもありましたが、世界大会や東京オリンピックの開催があります。3年後の東京オリンピック開催を踏まえて、今年から国際部門を立ち上げます。当然オリンピックが開催されますと外国の方々がわれわれのいる職場にも来るかもしれませんし、また街中で応対することがあってもきちんとできるように進めていけたらと思っています。以前から構想はありましたが、今年は具体的に取り組んでいくといったことが、強調

したいところです。次に石田副会長お願ひします。

石田副会長：会長より準備が大切ということで2年後3年後4年後とやるべきことは決まっているので、一つ一つを確実に実現させていくにはどういった活動が必要なのかを考え



白木副会長

ながら会務を運営できたらと思っています。先ほど白木副会長からの国際化についてですが、昨年ソウルで開催されたISRRTに参加した時を思い起こしますと、迎え入れるウェルカム体制であることが素晴らしかったです。実感してみて、われわれもしっかりおこなつていかなくてはいけないと確信致しました。そのためにはどうしたらよいのかということで白木副会長も強調した国際部門をしっかりと準備していきたい。首都東京として推進していけばそこからまた新たなものが生まれ出されるのではないかと期待もしています。

白木副会長：ありがとうございました。鈴木理事はいかがでしょうか。

鈴木理事：私としましては、総務ですので会長、副会長それから実際に活動される皆さんのがやりやすいように、会がより盛会になるように縁の下の力持ちとしてバックアップしていきたいと思っています。会長がおっしゃられたとおり、ここ3年間は今までにないすごいスピードで国際化をしていくと思います。運営が円滑に進むように、そして皆さんもその流れに乗って国際化を進めていくことで、より活発な技師会活動ができるようにお手伝いができると想っております。

白木副会長：ありがとうございました。鈴木理事は就任して6ヶ月ですが、すでにベテランのように活躍されていますね。さて、お話の流れの中で、国際化といったキーワードが出てきましたが共通の認識があるようですね。これについて、具体的にお伺いしたいのですがご意見ありますでしょうか。私はやはり会話だと思います。例えば技術学会は、国際学会での発表ったり研究のすすめ方などを中心にやられていると思うのですが、われわれは学術よりも先ほど述べた患者対応などの英会話を進めていけたらと思っています。会長はどのように思われているでしょうか。

篠原会長：何をもって国際化というかは、いろいろな見方があるかと思います。基本は特に英語を中心とした語学、やはり学会発表などがメインになってくるとは思います。一昨年末に、懸案だった国際交流活動に一步踏み出せたかなと思うことがありました。それはソウル特別市放射線士会との学術交流協定の締結です。

今まで国同士の協定はありました。例えば日本と韓国や日本と台湾などです。一昨年シンガポールでソウル特別市放射線士会からご提案をいただきまして、ぜひ首都同士の交流を進めたいというお話をしました。約一年半かけて協定締結の準備を進めてきました。これもまた国際化への第一歩だと思います。具体的な交流事業はまだまだすけれども、しっかりと育てていきたいと思っています。

白木副会長：篠原会長と石田副会長は昨年のソウルで開催された世界大会に参加され、先ほど少し触れられていきましたが石田副会長どうでしたか。

石田副会長：世界大会の印象で一番強く残っているのは、女性が元気だったということです。非常に活気と華やかさを感じました。海外での発表となると、まず空港から会場に行ってプレゼンするPCセンターにたどり着くまでは冒険です。やっとの思いでたどり着いたところに受付の女性の方が快く対応してくれました。スーツを纏った威厳のある人よりも女性の方がやわらかい印象で話しやすさを感じられました。

白木副会長：鈴木理事は数多くの国際学会の経験がありますが、なにかアドバイスの様なことはありますか。

鈴木理事：私の場合は、自分の研究などを海外で発表する機会があった中で、やはり英語でのコミュニケーションは大切だと思います。特に学術の場合は英語が共通言語と言っても過言ではないと思います。しかし、国際学会に参加し、懇親会や交流会に参加してみると、



参加者の半分は実は英語圏じゃない方だったりします。そういう意味では必ずしも英語が必要というわけではないとは思います。もちろん英語ができることに越したことはないと思いますが、英語はプラスアルファという程度でしょうか。やはり、どんな手段であれ意思疎通を図ることが大切だと思います。学会からは話がずれますが、個人的にはアジア・オセアニアといった地域で、お互いが国際化をすることによって相乗効果が望めるのではないかと思います。例えば、あちらの技師会はそういった活動をしているのだと、他国の現状を観て聴いて良いところを吸収して高め合っていくといった国際化というのをできたら良いなと思っています。そのためにはまず、勇気をもって意思疎通を、そして可能なら英語のコミュニケーションということが大切だと思います。意思疎通の一つの手段としての英会話勉強会の機会は徐々に設けていっても良いのかなと思います。

白木副会長：国際化に向けて、これからいろいろな企画について国際部門や学術教育委員会を中心に進めていきたいと思います。先ほど会長が仰られたソウル特別市との調印は非常に大切な一歩だと思います。

石田副会長：先ほどの話のソウルですが、元東放技理事の佐藤三郎先生にご同行いただいて、私は片言ですがそばに英語を流暢に話せる方がおられるお陰で、臆することなく話しかけることができました。そういった中心的なタワーとなる人材を育てていけたら良いと思



います。英語が苦手だから躊躇してしまうといったことも軽減できると思いました。

鈴木理事：日本人だからかもしれません、外国の方はフレンドリーでこちらが話す英語を熱心に聞いてくれる方が多いと思います。恥ずかしがらずに“通じなくて当然だ”ぐらいで、私もコミュニケーションは積極的に取るようにしています。

石田副会長：外国の方は、こちらの言いたいことは何なのかな？ と一生懸命聞いてくれる。何か一つでもキーワードが引っかかれば次に進める。向こうが助けてくれます。

白木副会長：やはり恥ずかしがらずにトライするということが大切なのですね。国際化への対応といったところでいろいろお話しをいただきましたが、国際部門を推進して行ってこれから3年間で違う姿になれることを期待したいと思います。国際化もそうですが、統一講習会など多くおこなっていかなくてはならない事業があるかとは思いますが、技師会の将来像についてお聞かせいただきたいと思います。



篠原会長：将来像といいますか、先ほど話した2年後、3年後、4年後の話、そしてさらにその先もあると思いますが、今いるわれわれが行けば良いといったわけではなくて、それを行なながら次の世代を発掘する。あるいは育成していかなくてはならないと思います。大

きなイベントほど、始動時期が早くなりますので実施時期は一年ずつずれても、準備期間が重なりますので組織機能の有機的運動が重要になると思います。それには今いる人たちだけで連続的に先を見ていくだけでは限界があります。人材育成、これもわれわれの将来に向けての責任であると思います。その後の東放技を作っていく人たちへのバトンタッチというのがこの大きなイベントに秘められている最大の目的だと思います。

白木副会長：世代交代といいますか、次への人材育成ですね。一番大事なところかもしれませんね。私としては、かねてから思っておりますが組織率を上げていきたいと考えております。将来的には80%を目指



したいです。というのも、技術職というのは生涯的に学んでいかなくてはならないものです。以前会誌「東京放射線」の巻頭言で、私見ですがプロフェッショナルとプロに分けて技師像を紹介させていただきました。プロの中でも日々努力している人と、やるべき仕事だけこなすといった人がおり、技師会に入って日々努力している人と、そうじゃない人どちらに自分の家族を検査してほしいかといったことだと思うのですよね。そういう意味では、勤めだしてからも日々努力している人がプロフェッショナルだと思います。ぜひ技師会に入ってそうあってほしいと思います。そのためにも、もっとアピールして組織率を上げていきたいです。

篠原会長：われわれの役割といいますか、なんで技師会があるのかといったことをもっともっと浸透させなければならぬと思います。入会促進時によく聞かれるることは“どういったメリットがあるのですか？”というのがありますが、今回の業務範囲の拡大にしても、それから厚生労働省への提言、具体的な話ですと指定規則をどうするかといったことなど、厚生労働省と唯一の窓口は技師会です。ですから、この国家資格で働いている人にとっては、自分の職業を守るために唯一の手段といった意識を高めていかないと組織率は上がっていかないと思います。もちろん、一地方都市の東京都診療放射線技師会だけではできませんが、日本診

療放射線技師会を支える一地方として組織率を上げていくというのが一番の支援になると思います。白木副会長がおっしゃられたとおり組織率を上げていくというのは、そこに大きな目的があると思います。

石田副会長：会長は、理事会で当面の目標として会員3,000名を目標と掲げられました。まずはそこに向かって突き進めればと思います。

篠原会長：まずは3,000名といいましたが、組織率を50%以上にしたい。現在都内には6,000人弱の診療放射線技師がいるといわれています。東放技は現在約40%ですからまずは50%を目標にしたいと思います。

石田副会長：うちの施設の若い技師にどうやったら入会者が増えるかきましたら、弁護士や会計士業界は所属しなければ業務をおこなうことができないといった形態をとっているのなぜ技師会はそうじゃないのかと言われました。なかなか簡単なことではないと説明はしたが、入っていないと恥ずかしいこととなるくらいに会の位置づけを高めていけたらと思います。入会促進について具体的にはどうしたら良いかと聞いたら、診療放射線技師会がもしもなかつたらわれわれの職業はどうなっているかというシミュレーションを見せてあげるのも手ではないかと言っていました。若い技師の発想なので多少過激ではありますけど。

白木副会長：逆転の発想ですね。

篠原会長：傾向として、歴史のある職能団体ほど組織率が低いですね。医師会、看護協会やわれわれ。どこというわけではありませんが新しい職能団体ほど組織



率が高い傾向にあるように思います。新しい団体は世の中に認知してもらおう、存在意義を高めていこう、こういったことは保険点数にも影響してきますので、意識は高いように思います。われわれも既得権益であるといったことから脱却して、初心に帰り業務範囲を広げて意識を高める方向に持つていいけるようにしたいと思います。

白木副会長：鈴木理事はいかがですか。

鈴木理事：私は総務の立場で発言して良いのかわからぬですが…。

白木副会長：個人的な意見で良いですよ。

鈴木理事：入っていない人の立場でものを考えると、組織率は二の次で良いのかなと思います。まずは個人として、その会に魅力を持てるかということだと思います。会に魅力を持って活動していくうちに、組織として何かできることはないかという流れで会が盛り上がりしていくというのが自然だと思います。上司や先輩の方などから入ったら？などと言われて会員が増えていくことによる組織率上昇というのは私の望む形ではないですね。そうなると、入りたいと思ってもらうためには、今おこなっている活動に加えて魅力ある活動、先ほど話題に出ました国際化もそうですし、日々の業務で改善できるレクチャーやセミナーなど、新しい事業を開拓していかなければならぬと思います。そして企画運営して実際に活動していただくのを私は全力でバックアップしていく様な事が中長期的なプランになると思います。統一講習会もそうですが、やはり一人でも多くの人が入ってよかったです、技師会の一員として活動をもっと深めていきたいという人が増えて、その人たちが同僚や後輩たちに声をかけていくということが実り実って、その結果組織率が上がっていくなら嬉しいなと思います。

篠原会長：私も鈴木理事がおっしゃるとおり、その会に入るか入らないかというのはあくまでも個人の意思で、極端に言えば魅力があるかないかだと思います。それはむしろ組織においては健全ですよね。

一同：そうですね。

篠原会長：ただ、先ほど私が述べました“組織率を上げる”に関しましては、技師会が唯一厚生労働省の窓口という意味でいうと、その職能をあなたたちはどれくらい代表しているのかということなので、少し視点が違います。われわれの仲間を増やすといった意味の組織率の問題と、会の魅力といったことは少し切り離してお話ししました。あくまで健全が大前提で、入る人が増えていくようにしたいとは思っています。そして、われわれの職能を代表する組織だとアピールできるように、それが両立できるというのが理想ですね。

鈴木理事：そうですね。職能団体としてのアピールや情報提供は、今以上に行っていきたいですね。

石田副会長：学術教育委員長の市川理事が行っている企画や活動をみると、常にニーズに合った内容で企画しています。マンネリを全く感じさせません。その辺りを見習っていけたらと思います。これから東京都診療放射線技師会をより高めていくには、何が必要とされているか？ 何が足りないのかといったニーズに対応しつつ、まずは組織率50%以上の大きな目標に向かって

ていきたいですね。

鈴木理事：もっと目標を明確に打ち出しても良いのではないかと思います。先ほど会長のお話にも出ましたが、入会に何のメリットがあるのといった話になってしまっているので、はっきりと言うのは難しいことだと思いますが、キーワードなどを設けて技師会のメリットを前面に打ち出していってはどうかと思います。

白木副会長：先ほど鈴木理事が大変良いことを言っていましたが、会員目線ではなくて非会員の目線での話しがありました。今の企画は会員の方を中心としたものですが、今度は来もらうのではなくて、こちらから出向いたりホームページなどを活用して非会員の人たちにアピールできたら、もう少し届いていくのではないかと思います。会員の為がもちろん大切ですけれども、そうじゃない人たちにもどうアピールしていくかを考えるのも大切ですね。

石田副会長：そうですね。学校などにも出向いてアピールもしていきたいですよね。

鈴木理事：私は働いてから解ったのですが、職能団体とはどういった役割なのかを学生の内から認知しても



らうことは非常に大切だと思います。もちろん、学校のご協力があってのことだと思いますけれども、今後広めていくには必要だろうと思います。

石田副会長：戦略としてですね。

篠原会長：私も一校だけ依頼を受けて年に一度講義をさせていただいておりますけれども、そちらの先生も学生の内からといったことを強調されておりました。診療放射線技師になってからではなく、なる前から職能団体がどういったものでどうして必要なのかを教えていただきたいとお願いされました。今は一校だけですがいざれは都内全校おこないたいですね。ただ、なかなか時間を設けるのが難しく、特に専門学校などはカリキュラムをこなすためにその他の時間を作りづらいと思います。

石田副会長：志の熱いうちにですね。

一同：そうですね。

篠原会長：あと、具体的な話になりますとフレッシャーズセミナーに150名近い方が受講してくださっています。この方たちにはできるだけご入会いただけるようにしていかなければなりませんね。フレッシャーズに参加したというのは、とても大きなきっかけだと思います。職場の上司などから行ってこいといわれた方々も多いかとは思いますが、フォローアップして入会に繋げていきたいと思います。

一同：そうですね

白木副会長：本年は学校に出向きましょう!! 今年の座談会は将来像についてお話を聞きしてまいりましたけれども、組織率の話題などだいぶ発展的な意見もお聞きできました。それでは最後に皆さまから一言ず



ついただきたいと思います。それでは私から、本年は絶対国際化をやるぞ!! そして、アピール、東放技から出るぞ!! これらをやっていきます!! 今年も「東放技はひとりのために。ひとりは東放技のために」という思いで取り組んで参ります。

石田副会長：私は決め台詞を持ってきました。『I can do things you cannot, you can do things I cannot, together we can do great things.』マザーテレサの言葉です。意味は『私はあなたがやれないことがやれる。あなたは私がやれないことがやれる。だから、一緒にやれば、すごいことができる』です。本年も皆まとともに技師会活動を楽しみたいと思います。

鈴木理事：地区委員と地区委員長を務めさせていただ

いた経験を活かして、地区目線を大切に持ちながら総務としての仕事をしたいと思います。そして会長が仰ったように一歩先、二歩先、さらにはその先を見据えて会の運営を引っ張っていけたらなと思います。もちろん、今までの良いシステムは継続させていただきまし、皆さまが動きやすくなるような、活動が楽しくなるようなシステムや方法もどんどん導入したいと思います。そして、それに関しましてもご指導いただき、皆さまに叱咤激励もしていただき会をもっと良くしていきたいと思います。変えてみせます!!

白木副会長：ありがとうございました。最後に会長おねがいします。

篠原会長：冒頭には、2年後、3年後、4年後の話、大きなイベントの話をさせていただきましたが、そのことは組織自体のあり方もそうですし、総会のあり方など組織の運営についても、永年の伝統をふまえながら時代や会員規模、社会の変化などに対応できるように現職が責任を持って知恵を絞る必要があると思います。任期を務めて“はい終わり”では無責任だと思います。現在、定款諸規程等委員会でも素案を練っていますし、いろいろなことを模索しながら具体化する年だと思っています。本年もよろしくお願ひ致します。

白木副会長：ありがとうございました。本年の新春座談会は、新任副会長・理事の紹介を兼ねて東放技のこれから構想・未来像について語り合いました。新春に掲げた目標をしっかりと実現するよう取り組んでいきたいと思います。1月13日（金）には恒例となりました「新春のつどい」を開催しますので、みなさま奮ってご参加いただき、新しい年のスタートにしたいと思います。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

参加者公益社団法人東京都診療放射線技師会役員歴

篠原健一：涉外担当理事2期4年、総務担当理事3期6年、会長4期目

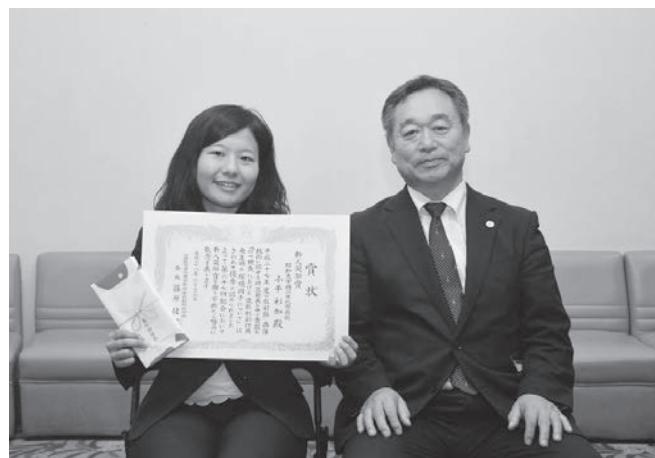
白木 尚：地区委員長2期4年、学術担当理事1期2年、副会長3期目

石田秀樹：総務担当理事延4期7年、副会長1期目

鈴木雄一：地区委員長2期3年、総務担当理事1期目

平成27年度
新人奨励賞 受賞報告

「CT検査における造影剤副作用発生時の環境因子について」
～昭和大学2施設における造影剤副作用報告書から～



○小平彩加¹⁾ 中井雄一²⁾ 若松裕二³⁾ 守屋克之³⁾ 佐藤久弥⁴⁾ 新田勝¹⁾ 中澤靖夫⁴⁾

- 1) 昭和大学横浜市北部病院 放射線室
- 2) 昭和大学大学院 保健医療学研究科 診療放射線領域
- 3) 昭和大学病院 放射線室
- 4) 昭和大学大学院 保健医療学研究科

【背景】

造影CT検査で診断能が飛躍的に向上することは周知の事実である。しかし、造影剤による重篤な副作用が起こりうることを認識しておかなくてはならない。副作用は、膨脹や搔痒感などの軽微な症状がほとんどであるが、まれに死亡例も起こりうる。副作用の発生頻度は2~3%、重篤な副作用の発生頻度は0.004%~0.04%と報告されている。

【目的】

昭和大学病院（大学病院）と横浜市北部病院（北部病院）における過去2年間（2013年1月～2015年8月）の造影剤副作用報告書より、副作用の発生率を調査した。また、副作用発生時における環境因子を洗い出し、副作用の原因分析を行った。

【方法①】

2年間の造影剤副作用報告書を基に副作用発生件数を集計し、その発生率を調べた。

【方法②】

2年間の造影剤副作用報告書を基に下記に示す7項目に傾向が見られるか検討した。

検査前の飲食制限は、大学病院では午前検査は朝食止め、午後検査は昼食止め、飲水制限は行っていない。北部病院では検査3時間前の飲食禁止としている。

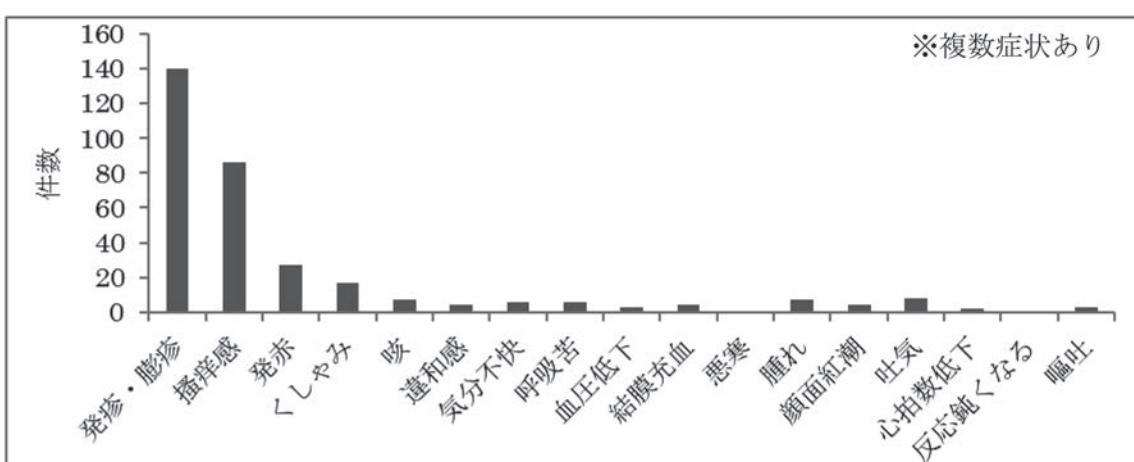
1. 症状
2. 性別
3. 年齢
4. 造影剤の種類（先発品か後発品）
5. 注入速度
6. 副作用発生時間帯
7. 月ごとの発生件数（2013年1月～2015年8月）

【結果（発生頻度）】

	大学病院	北部病院
総 CT 件数	94,017 件	70,252 件
造影件数	32,925 件	36,919 件
造影率	35%	52%
副作用発生件数	168 件	93 件
副作用発生率	0.5%	0.3%

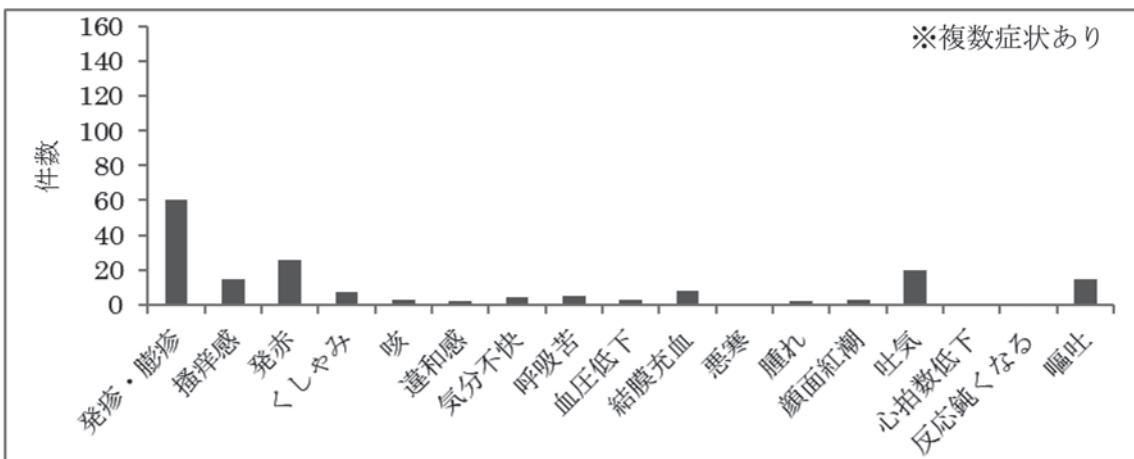
【結果（副作用の症状）】

- ・大学病院



頻発する軽微な副作用は発疹・膨疹、搔痒感、発赤であり、その発生率は88%であった。

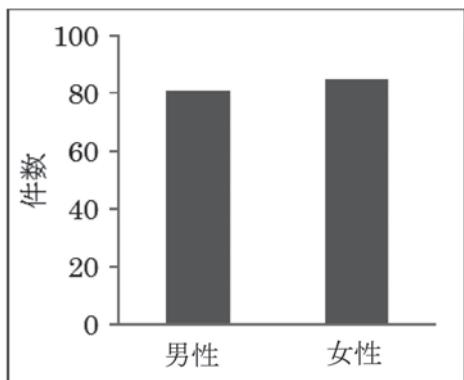
・北部病院



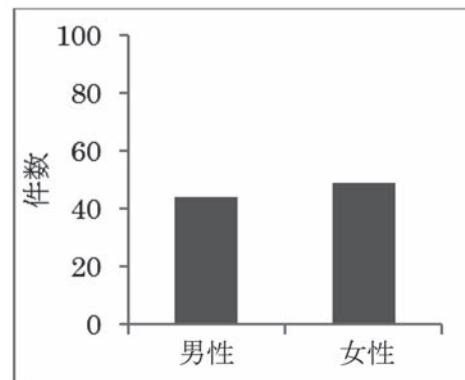
共通する軽微な副作用は発疹・腫脹、搔痒感、発赤であり、その発生率は76%であった。

【結果（性別）】

・大学病院



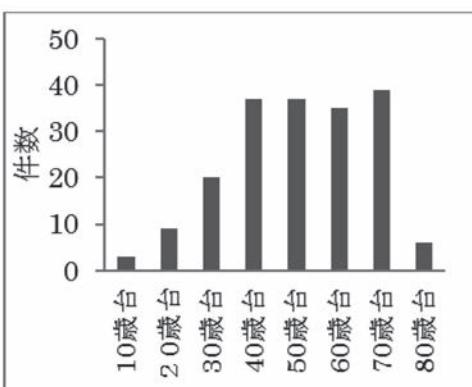
・北部病院



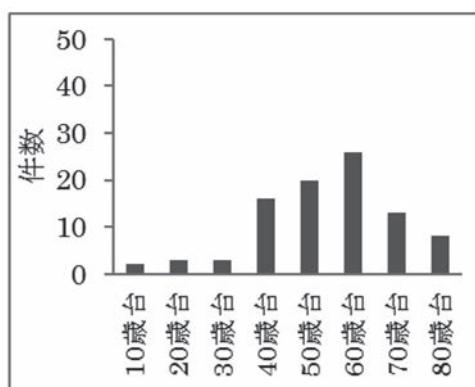
性別による傾向はなし。

【結果（年齢）】

・大学病院



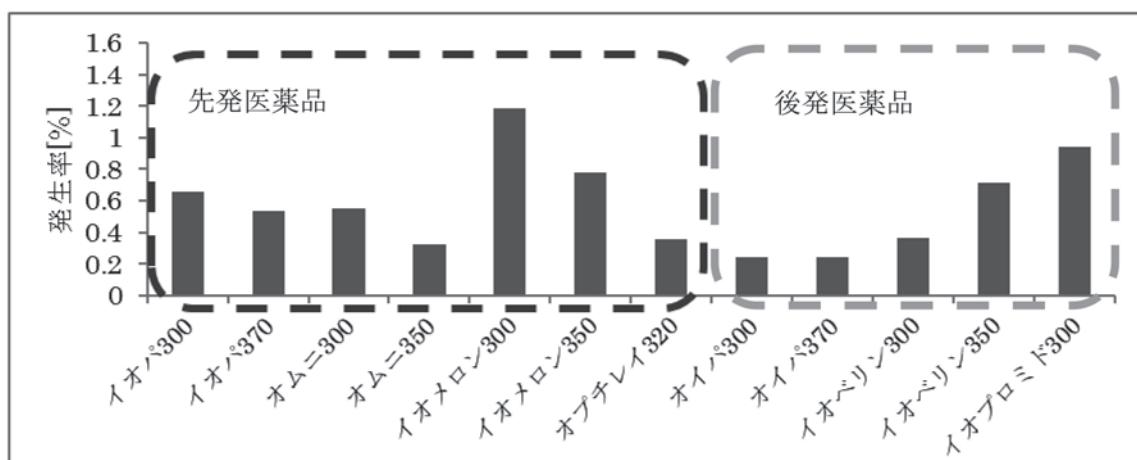
・北部病院



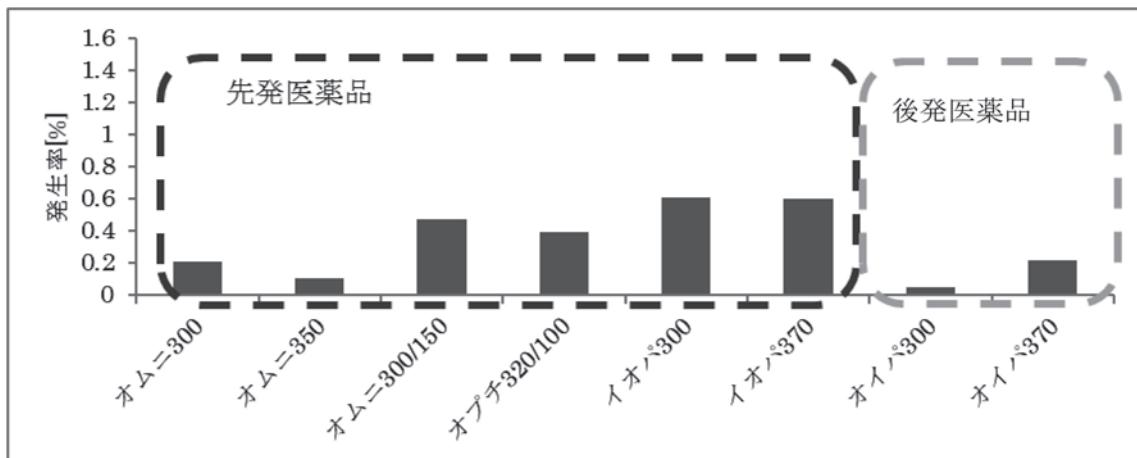
年齢による傾向はなし。

【結果（造影剤の種類）】

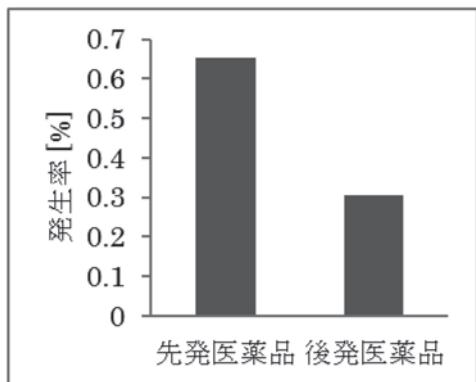
・大学病院



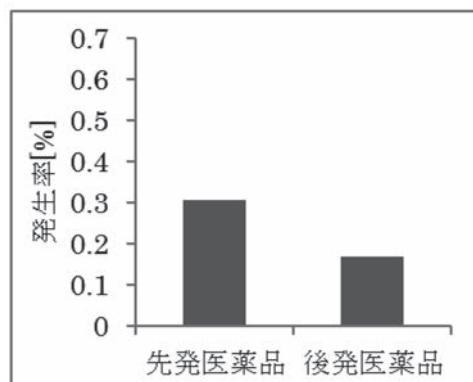
・北部病院



・大学病院

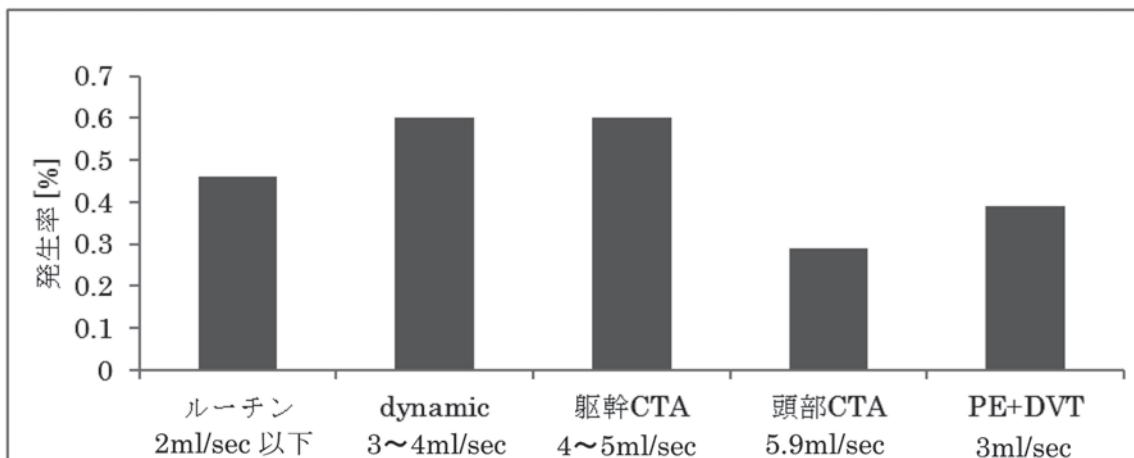


・北部病院



後発医薬品において副作用発生率が少ない傾向にある。

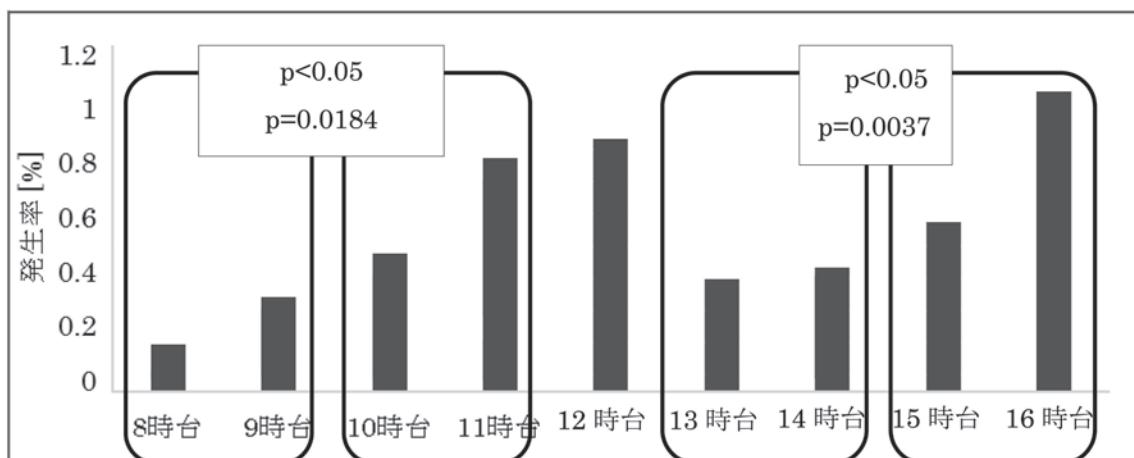
【結果（注入速度）】



検査内容による傾向はなし。

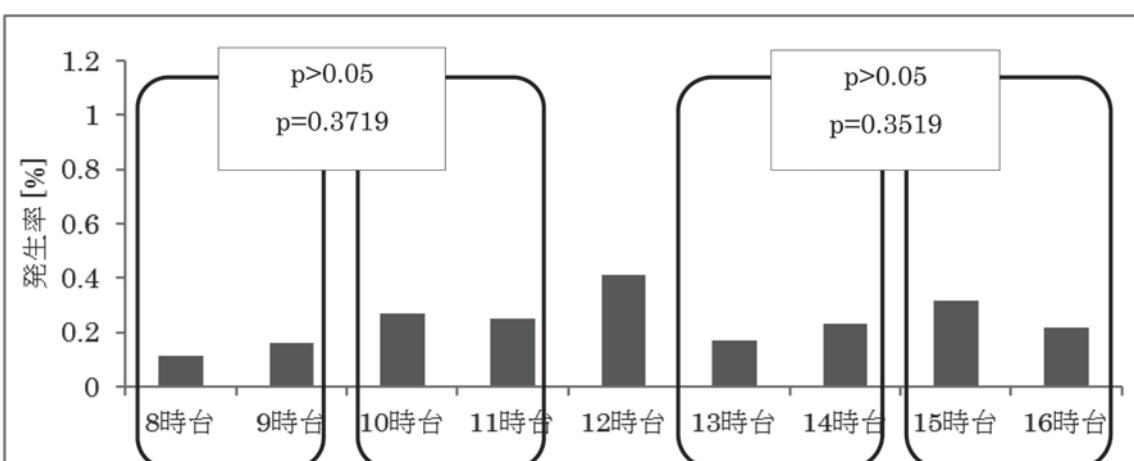
【結果（副作用の発生時間帯）】

・大学病院



午前、午後ともに検査時間が遅くなるほど副作用件数が増加する傾向にある。8時台から9時台に起こった副作用件数と、10時台から11時台に起こった副作用件数に有意差があるのか、カイ二乗検定にて検討したところ有意差がみられた。13時台から14時台に起こった副作用件数と、15時台から16時台に起こった副作用件数に有意差があるのか、カイ二乗検定にて検討したところ有意差がみられた。

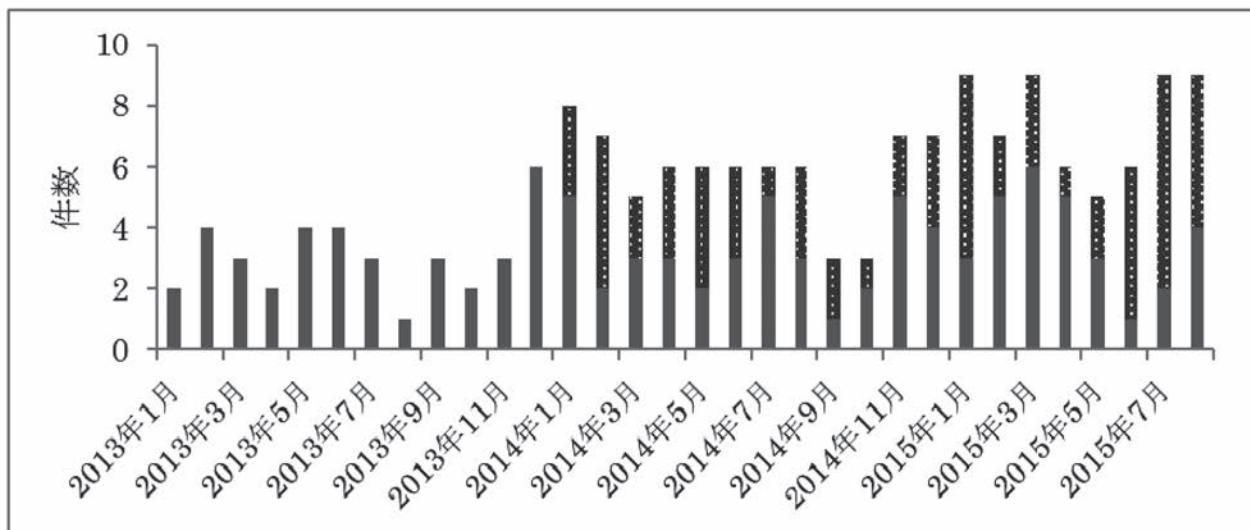
・北部病院



午前、午後ともに検査時間による副作用発生件数に傾向は見られない。8時台から9時台に起こった副作用件数と、10時台から11時台に起こった副作用件数に有意差があるのか、カイ二乗検定にて検討したところ有意差はみられなかった。13時台から14時台に起こった副作用件数と、15時台から16時台に起こった副作用件数に有意差があるのか、カイ二乗検定にて検討したところ有意差はみられなかった。

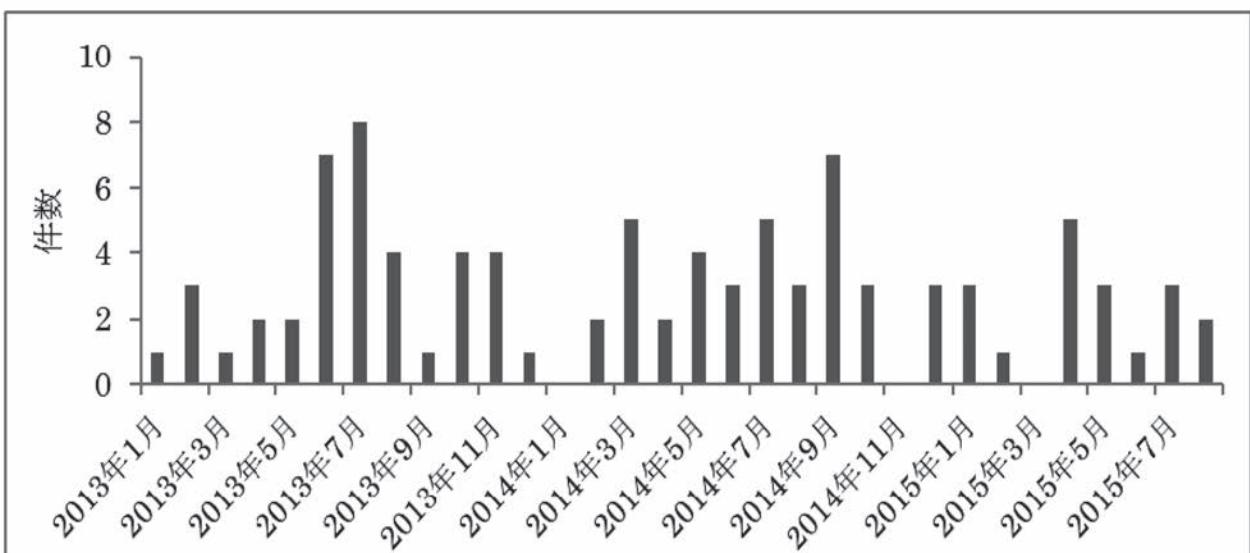
【結果（月別副作用発生件数）】

・大学病院



2014年1月から造影検査後20分間観察を行うようになったため、副作用発生件数が増加した。網掛けで示した部分が20分観察後に発生した副作用件数である。

・北部病院



月別の発生件数に傾向はなし。

【考察】

大学病院では午前造影検査は朝食抜き、午後造影検査は昼食抜きで前処置を行っている。午前、午後ともに検査時間が遅くなるほど副作用発生件数が多い傾向にあった理由として、最終絶食から時間が経過していることが挙げられる。北部病院で検査時間帯による副作用発生率に有意差がない理由として、検査3時間前の飲食禁止を前処置としているため、最終絶食からの経過時間に差がみられないことが挙げられる。このことから、副作用の発生率は絶食時間に関与している可能性が考えられる。

大学病院において2014年1月より副作用が増加した理由は、看護師による造影検査後20分間の観察が行われるようになったからである。そのため、今まで造影使用後すぐに帰宅させて分からなかった急性副作用（投与後1時間以内）を副作用として捉えることができるようになり、副作用発生件数が増加したと考えられる。

【結語】

造影剤副作用の発生には、検査時間帯において有意な差がみられた。このことから、発生率は絶食時間に影響する可能性が考えられ、その環境因子を変更することにより、発生率が改善される可能性が示唆された。



平成27年度
新人奨励賞 受賞報告

「胸骨2方向撮影の一考察」

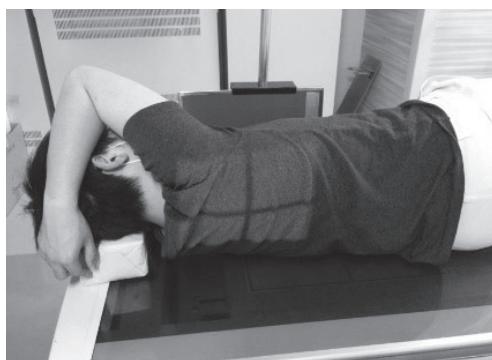


○土谷 健人

公立福生病院

【背景】

昨今の胸骨撮影は撮影頻度の少なさなどで胸部専用装置（立位）、臥位専用機などで撮影することが少なくない。一方、描出能に関しては立位による側面性精度の低下や高圧用グリッドの使用による後前位（正面像）のコントラスト低下などで、良質な胸骨画像取得ができていない背景がある。今回われわれは胸骨2方向撮影を再考し、後前位を側臥位（Fig.1）、側面位を背臥位（側方より入射）（Fig.2）での撮影手技を試み、若干の知見を得たので報告する。

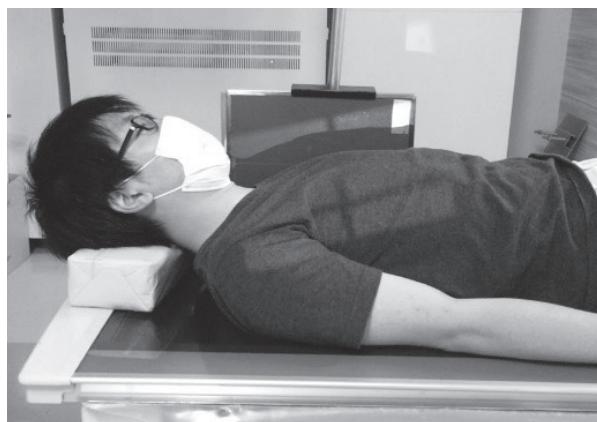


左側臥位より30° 傾斜



フィルムに垂直に入射

(Fig.1 後前位検討体位)



背臥位とし側方よりフィルムに対し垂直に入射

(Fig.2 側面位検討体位)

【使用機器】

- ・一般撮影装置：島津社製 RAD SPEED Safire
- ・胸部ファントム



【方法】

1、後前位撮影の検討

側臥位と立位で行った撮影の心臓陰影の動きを検討 (Fig.3 Fig.4)



(Fig.3 側臥位)



(Fig.4 正面位)

2、側面位撮影の検討

胸部ファントムにて通常行っているように側面位のポジショニングを行い、真側面位とのずれを測定 (Fig.5)

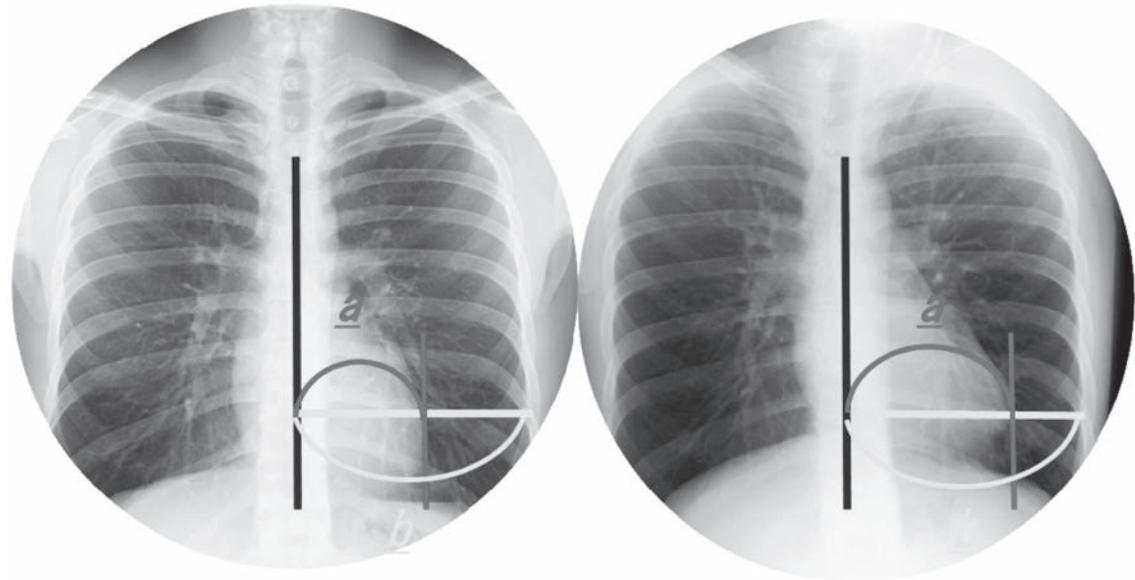


(Fig.5 胸部ファントムを用いた側面位)

3、2方向撮影を行う場合の所要時間と手技の負担を検討

【結果】

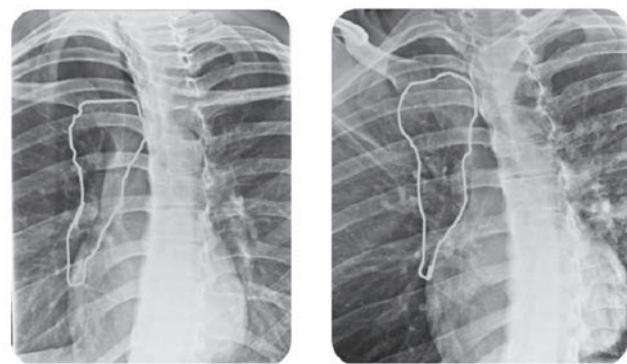
後前位撮影 (Fig.6) (Fig.7) (Fig.8)



(Fig.6 心臓陰影の変動)

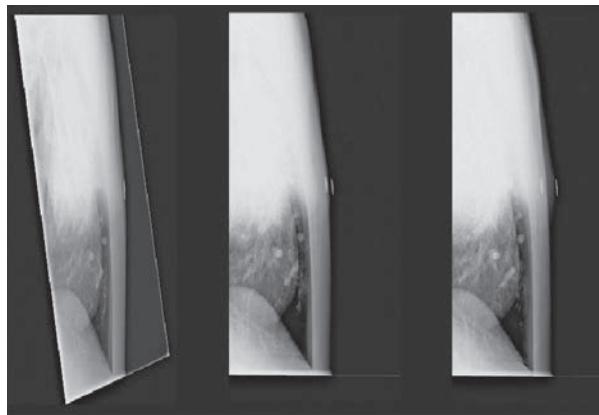


(Fig.7 正面位との比較)

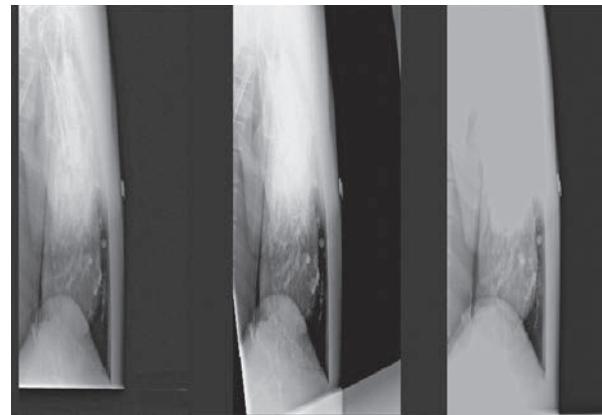


(Fig.8 実際の撮影画像)

側面位撮影 (Fig.9) (Fig.10)

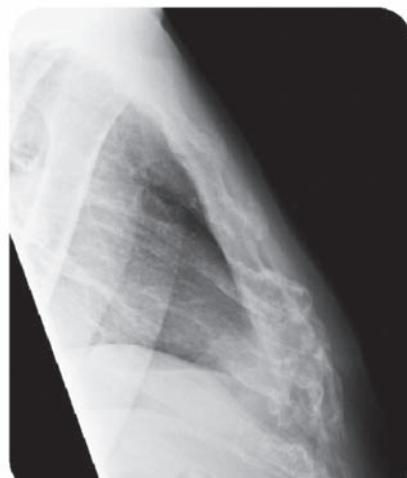


立位



検討体位

(Fig.9 側面位撮影の比較)



立位



検討体位

(Fig.10 臨床例)

2方向撮影を行う場合の所要時間と手技の負担 (Fig.11) (Fig.12)



(Fig.11 撮影時間)

	立位	検討体位
利点	寝台に寝る必要がなく、簡便	再現性が高く、再撮のリスクが低い 救急にも対応可
欠点	体の保持がしにくく、再撮のリスクが高い	撮影時間が多少延びる 円背の人には不向き

(Fig.12 手技の利点と欠点)

【結果・考察】

側臥位で撮影を行うと心臓の陰影が外れて肺野に描出される割合が増す傾向にあった。

背臥位から側臥位へのポジショニング移行については比較的簡便にでき、患者への負担も少ないと思われる。

側面位に関しては検討体位での撮影はズレることも少なく、安定していると思われる。

2方向撮影として考えた際に臥位での撮影は患者にとっては安楽な体位で、救急時でも対応可能と思われる。

場合によっては本撮影手技が適さないケースも見られ、継続的な検討が必要と考える。

【結語】

今回検討した胸骨撮影は患者移動も少なく、描出能、精度も良好であり、有効な撮影手技の一つと考える。



平成28年度城南支部研修印象記

東洋公衆衛生学院 森川結菜

私は、今回の「放射線診療における診断参考レベルと被ばくの最適化」についての講義を聞いて、被ばくを最小限に抑えることや、線量の最適値を出すことは難しいと考えました。しかし、患者の被ばくだけのことを考えて検査を行うことは、正しい診断ができないというリスクもあると思いました。

そのために、“WAZ-ARI”を使用して撮影条件、患者の体型、年齢に応じたCT撮影時の臓器被ばく線量と実効線量の計算ができるシステムは良いと思いました。

“WAZ-ARI”は、とても便利なものだと思います。データの比較や評価をできることは大きなメリットだ

と感じました。同じ撮影条件だった場合の被ばく線量の比較をすると、痩せ形の方が被ばくしているというデータがあり、体型によって線量を変えることが重要だと考えました。

私は、将来CT検査に携わりたいと考えているので、被ばくについて考え “WAZ-ARI”など便利なものを利用していきたいと考えました。今回の勉強会でCTについて考える良い機会になったと思います。もっと詳しく学ぶことが今後の課題です。

大変貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。



「中央区健康福祉まつりに参加して」

浅草病院 田辺清菜

10月末に健康福祉まつりが開催され、第2地区の地区委員として参加させていただきました。当日は天候にも恵まれ、たくさんの方々で賑わっていました。

東京都診療放射線技師会のブースでは、タブレットを用いた「放射線クイズ」、乳がん検診やセルフチェックに関する「パネル展示」、ファントムを使った「乳がんしこり体験」を行い、多くの区民の皆さんにお立ち寄りいただきました。

放射線クイズは少し難しいのではと思う問題もありましたが、幅広い年代の方に楽しんでいただけたのではないかと思います。

乳がんしこり体験では、最近のテレビタレントの乳がん報道もあり、関心の高さを感じました。しかし、定期的にセルフチェックや乳がん検診をされている方は少なく、今日のように実際にしこりを体験して、検査に対する不安を解消することの大切さを改めて感じました。普段の業務の中では、なかなか検診や検査などの質問にゆっくりと対応することができない場合もあり、今回のようにファントムを使いながら一人ひとり対応できたことは、とても良い機会となりました。

地道ではありますが、今回のような活動が少しでも乳がんの早期発見に繋がればと感じております。

「中央区健康福祉まつりを振り返って」

聖路加国際病院 杉 智子

家庭でのセルフチェックの仕方は、知っているようでも知らない方々が多く、正しいやり方を伝えられていたらと思います。もちろん、日常のセルフチェックとともに検診の受診率向上に少しでも貢献することができたら幸いです。

また、検査時は話さないような、検査に対する不安からふみ出せない気持ちや、妊娠や育児中の検査も受診したいが受けづらい状態など、さまざまなお話を直接お聞きできる良い機会でした。ありがとうございました。



城北支部研修会に参加して

日本医科大学付属病院 菅谷正範

平成28年11月11日に開催された、城北支部研修会に参加させていただきました。東京北医療センターの關良充先生を講師に迎え「もし診療放射線技師が医療安全管理者になつたら -病院の医療安全管理と放射線部門管理の実際-」のテーマでご講演いただきました。關先生は診療放射線技師でありながら医療安全管理室長といった経歴をお持ちで、関係法令の概要や医療事故報告の分析、医療安全管理を取り巻く多岐にわたる委員会等がどのように機能していくかなど、医療安全のシステムに関しても解説いただきました。また、病院において大多数を占める看護に関するインシデントレポートから、診療放射線技師が医療安全管理者として医療安全を考える上で、どの様な難しさがあったかを自身の貴重な体験談と共に聞くことができました。

医療安全元年と言われた1999年、これ以降に多くの病院に医療安全管理部門が設定され始めたことを私は初めて知りました。私が診療放射線技師として働きだして10年余りが経ちますが、入職時にはすでにさまざまな医療安全の対策が取られていたこと思います。私自身、インシデントレポートをいくつも書いたことがあります、それはまさに医療安全に向けて自らも報告を行っていたのだなと思い返しました。当院の先輩方からも、これは個人を責めるのではなく医療行為を行う上でミスが起こりやすいポイントを洗い出すために必要なのだ、ということをまだ新人だった当時によく聞かされたことを思い出し、關先生が講演の冒頭でおっしゃっていたことと重なりました。

また、医療安全文化を創るには、まず報告する文化

を創ることが大切であり、これを成すためにはチーム医療と相互モニタが大切だということもおっしゃっていました。医療安全は病院全体として行うべきで、自らの職種の殻に閉じこもるのではなく、目標を高く設定し殻を破って職種を超えた連携をとることで、他職種にわたってお互いの仕事内容と問題点を共有し、チーム全体でエラーを減らすためにどのような戦略を立てて行くかが非常に大切だということがわかりました。仕事に忙殺され、気付いた問題点を報告せずに終えるのではなく、声を掛け合って問題点を発見するために、インシデントレポートをどんどんあげるような体制の活性化に向けて日々、臨まなければいけないと再認識しました。

さらに、事例の要因分析から改善へ向けた一連の行動の中で、課題の抽出、業務プロセスの見直し、業務の標準化、改善の立案と目標の数値化、改善にあった計画、周知や実施に向けた研修、効果の判定、フィードバック、促進のトレーニングなどにみられる、Plan(計画)・Do(実行)・Check(評価)・Action(改善)のPDCAサイクルの継続的な実施が非常に大切であると考えさせられました。

この考え方は医療安全のみにとどまらず、日々の仕事全般にも活かせる考え方であり、これを絶やさないために情熱をもって物事に取り組み、実施しただけで終わるのではなく、再考する謙虚な心を忘れずに、患者さんにとってより安全安心な医療を提供できるよう努めていこうと思います。貴重なお話をありがとうございました。



城北支部研修会を企画して

第6地区委員長 高橋克行

今回で15回目となる城北支部研修会は、東京北医療センターの關良充先生を講師に迎え「もし診療放射線技師が医療安全管理者になつたら -病院の医療安全管理と放射線部門管理の実際-」のテーマでご講演いただきました。週末に加え雨模様にもかかわらず51名にご参加いただき、医療安全に対しての関心の高さを改めて実感することができました。今まで撮影のテクニック以外のテーマでは参加者数が伸び悩む傾向にありましたが、管理職・中間管理職であろう年齢層の方々がほとんどで、現在の診療放射線業務がいかに撮影・作像のみの職業ではなく、患者の安全管理も検査の一環であり、そして病院全体はもちろんのこと放射線部署内全体として安全管理を重要視しなくてはならないかを裏付けるものだと感じました。

講演のなかで、指差呼称、5S活動、PDCA、Team STEPPSなど多くの重要なお話をいただきましたが、管理者としての資質はプラス面を伸ばすのみではなく、

いかにマイナス面を押さえ対応していくかといったこともあるのだと再確認いたしました。そして、組織として効果的に成果を上げるには、何につけても人とのコミュニケーションが非常に重要であると理解しました。

最も印象に残ったポイントは、講演のそこかしこに“人との出会い”が自分を大きくかえったとお話しされていた点です。最後にも、外に出ることで多くの方に刺激を受けることでモチベーションを保ち続けることができるし、その情熱から今度はアイデアが生まれるというお話でしめられました。私も技師会で出会った多くの方々に支えられておりますが、現状に甘んじることなく多くの出会いを求めていきたいと思います。

關先生をはじめ参加していただいた皆さんに感謝いたします。今後も城北支部は多くの出会いと情報をご提供できるように精励してまいります。よろしくお願ひいたします。



平成28年度 東京都がん検診センター
第2回乳がん検診従事者講演会のお知らせ

- 1 実 施 日 : 平成29年1月21日(土曜日) 14時から16時まで
2 会 場 : 都立多摩総合医療センター 1階講堂 フォレスト(下図参照)
3 対 象 : 乳がん検診に従事している医師、臨床検査技師、診療放射線技師、看護師 等
4 受 講 定 員 : 先着150名程度
5 受 講 料 : 3,000円(当日お持ちください)
6 申 込 方 法 : ①メールアドレスをお持ちの方
当センターホームページ(講習会・研修希望の方へ)から「インターネット予約」にて
お申込みください
URL: <http://www.tokyo-cdc.jp/kousyuu/kensyuu/asp.html>
②メールアドレスをお持ちでない方
裏面申込書をFAXにてお送りください。
受講いただけない場合のみ ご連絡いたします。

7 テーマ及び講師

『 総合判定の実際 －症例を中心に－ 』
つくば国際ブレストクリニック 顧問
東野 英利子 先生

① 【講演概要】

超音波併用の乳がん検診では総合判定を行うことが推奨されています。
総合判定では超音波検査を実施する方の知識・技量が非常に重要です。
マンモグラフィの読影から、どこにどのような病変を想定して超音波検査を行うか、
そして実際の結果を提示して実践的な解説をしたいと思います。

《お申込み・お問合せ先》

公益財団法人東京都保健医療公社 東京都がん検診センター 研修担当: 藤澤
〒183-0042 東京都府中市武蔵台2-9-2
TEL: 042-327-0201 FAX: 042-327-0297
E-mail: togan@tokyo-cdc.jp URL: <http://www.tokyo-cdc.jp/>

《会場案内》

- JR 中央線・武蔵野線「西国分寺駅」
徒歩 15 分
西国分寺駅南口「総合医療センター」行バス 終点下車
- JR 中央線「国分寺駅」
国分寺駅南口「総合医療センター」行バス 終点下車
- JR 中央線「国立駅」
国立駅南口「府中駅」行バス 総合医療センターアンダ車
- 京王線「府中駅」
「国立駅」行バス 総合医療センターアンダ車



平成28年度 東京都がん検診センター
第2回乳がん検診従事者講演会 受講申請書

日時:平成29年1月21日(土) 14時~16時

ふりがな 氏 名	
勤務先名称	
勤務先住所	〒 _____
電話番号	
FAX	
職 種	医師・臨床検査技師・診療放射線技師・その他()

※ 受講できない場合のみご連絡いたしますので、FAX番号をご記入ください。

学術講演会・研修会等の開催予定

日時、会場等詳細につきましては、会誌でご案内しますので必ず確認してください。

平成28年度

1. 学術研修会

☆第15回ウインターセミナー 平成29年2月18日(土)

2. きめこまかな生涯教育

第59回きめこまかな生涯教育 未定

☆3. 日暮里塾ワンコインセミナー

第62回日暮里塾ワンコインセミナー 平成29年1月19日(木)

第63回日暮里塾ワンコインセミナー 平成29年2月24日(金)

第64回日暮里塾ワンコインセミナー(第6地区研修会共同開催)

平成29年3月4日(土)

4. 集中講習会

第9回MRⅠ集中講習会 平成29年1月14日(土)

☆5. 支部研修会

城西支部研修会 平成29年2月10日(金)

6. 地区研修会

第12地区研修会 平成29年1月26日(木)

第16地区研修会(TART・SART地区合同勉強会) 平成29年2月18日(土)

第8地区研修会 平成29年2月25日(土)

第9地区研修会 平成29年2月28日(火)

第5地区研修会 平成29年3月3日(金)

第6地区研修会(第64回日暮里塾ワンコインセミナー共同開催) 平成29年3月4日(土)

7. 特別委員会研修会

S R推進委員会研修会(旧災害対策委員会研修会) 平成29年3月12日(日)

8. 地球環境保全活動

荒川河川敷清掃活動

日暮里駅前清掃活動

富津海岸清掃活動

関連団体

平成28年度第3回関東Anglo研究会 ステップアップセミナー

平成29年1月7日(土)

平成28年度東京都がん検診センター 第2回乳がん検診従事者講演会

平成29年1月21日(土)

平成28年度第5回業務拡大に伴う統一講習会

平成29年1月21日(土)～22日(日)

平成28年度第6回業務拡大に伴う統一講習会

平成29年2月12日(日)、19日(日)

☆印は新卒かつ新入会 無料招待企画です。

(新卒かつ新入会員とは、技師学校卒業年に技師免許取得し本会へ入会した会員をいう)

会員動向

平成28年1~11月期

年月	総会員数	新入	転入	転出	退会
平成28年1月	2,154	5	0	0	4
平成28年2月	2,156	8	5	1	10
平成28年3月	2,136	3	7	2	28
平成28年4月	2,146	12	4	1	5
平成28年5月	2,176	34	2	3	3
平成28年6月	2,214	38	2	0	2
平成28年7月	2,242	29	0	1	0
平成28年8月	2,223	11	1	0	31
平成28年9月	2,251	30	2	2	2
平成28年10月	2,272	20	2	0	1
平成28年11月	2,274	5	0	0	3

イエローーケーキ

究極のエコカーは車に乗らないこと？

私が若いころは、仕事が終わると行くあてもなく毎日遅くまでドライブをしていました。車を運転しているだけで楽しかったのです。ガソリン代は大変でしたが…。

現在では若者の車離れと言われ、車を所有する若者が減っていると耳にします。車を運転する以外の楽しいことがあるのでしょうか。車は決して安いものではなく、維持していくだけでも相当のお金が必要です。

会員の皆様は都内にお住まいの方も多いとか思います。首都圏では公共交通網が発達し、バリアフリー化も進み、マイカーが必要な場面も少なくなっているはずです。低燃費車、ハイブリッドカー、電気自動車などもよくみられるようになりましたが、どうでしょうか、車やめてみませんか？

これが究極のエコではないですか？

JetKousuke

News

1月号

日 時：平成28年11月4日(金)
午後6時45分～午後7時45分
場 所：公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所
出席理事：篠原健一、白木 尚、石田秀樹、鈴木雄一、
関 真一、野口幸作、浅沼雅康、市川重司、
高野修彰、長谷川雅一、齊藤謙一、竹安直行、
平瀬繁男、高橋克行、市川篤志、原子満、
工藤年男
出席監事：野田扇三郎、葛西一隆
指名出席者：関谷 薫（第2地区委員長）、稻毛秀一（第5地区
委員長）、富丸佳一（第7地区委員長）、鎌田 修
(第8地区委員長)、鈴木 晋（第12地区委員長）、
宮谷勝巳（第14地区委員長）、渡辺靖志（SR推進
(災害・公益) 委員長)、河内康志（総務委員)、
雨宮広明（総務委員)、村山嘉隆（総務委員)
欠席理事：江田哲男、安宅里美、崎浜秀幸
議 長：篠原健一（会長）
司 会：白木 尚（副会長）
議事録作成：村山嘉隆

前回議事録確認

前回議事録について確認を行ったが修正意見はなかった。

理事会定数確認

出席：17名、欠席：3名

会長挨拶

本日も忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。今年も残すところ二ヶ月を切りました。秋の事業も皆さまの協力で、すべて滞りなく進んでおります。また、今後の計画も実施される予定であります。

先日、中間監査がありました。われわれの事業の進捗状況などをしっかり監査していただきましたので、後ほど監事の方からご報告をいただきたいと思います。

また、いくつかの報告とお願いがあります。一つ目は、活動報告に書いてあるISRRと参加してきました。以前、理事会でソウル特別市放射線士会と、学術交流の協定を結ぶということで承認をいたしました。ISRRの会期中にソウル特別市放射線士会の皆さんと、あらためて最終的な協定を結ぶ合意をしてまいりました。ISRR開催中ということで向こうの方は運営で手一杯の部分もありましたので、正式な文書を取り交わす調印式は、また日をあらためてということで合意だけしてきました。この件については、もともと来年3月にソウルで学術大会があるので、そこで正式な調印をと思っていたところです。昨年の8月のシンガポールではじめてソウル特別市放射線士会の、Woo会長と首都同志の協定の話をして以来そういうつもりでいました。しかしWoo会長が来年の1月で退任ということで、ぜひ、最初に話を始めたWoo会長の任期中に調印したいということを話しました。そして、年内に調印をしようということで合意しました。後ほど、議事にも入っていますソ

ウル特別市放射線士会との協定書の案を回覧しますので、承認していただければ、正式な文書として年内に調印する運びにしたいと思っております。これは、後ほど議題のところで詳しくお話しします。それから約一ヶ月後に役員研修会があります。役員研修会は理事会でもあるので理事および地区委員長はできるだけ全員参加をお願いします。毎年この役員研修会は皆さんとの交流を兼ねていますので地区的皆さん、それから各専門部の委員の皆さんも可能であればできるだけたくさん参加していただき、この一年を振り返りながら、新たな計画などに向けた来年度の話もしたいと思います。最後にもう一つ、まだ先ですが11月から12月になると「新春のつどい」の準備が始まります。「新春のつどい」は来年の1月ですが各メーカーの方に声を掛けたり、いろいろな催しを考えたりしています。各病院でさまざまな立場で営業の方が訪問されると思いますので、皆さんの方からもぜひ声をかけていただきたい。各地区でも最低地区委員の数以上の参加も毎年お願いしておりますので、その辺もあわせてお願いしたいと思います。メーカーへの案内文ができあがりましたら配信します。

報告事項

1) 会長

活動報告書の補足として、10月20日から23日までソウルでISRR 2016が開催され、参加してまいりました。国際大会などの観察を兼ねて本会から三人が参加させていただきました。

・その他、活動報告書に追加なし

2) 副会長

白木副会長

・活動報告書に追加なし

石田副会長

・活動報告書に追加なし

3) 専門部委員会

・活動報告書に追加なし

4) 中間監査報告

葛西監事：中間監査に出席しまして重要な決算書類などを閲覧し、業務及び調査を致しました。法令および定款にとづき法人の状況を正しく示していると認めます。理事の職務、遂行に関する不正の行為、また法令、もしくは定款に反する事実は認められません。

野田監事：皆さまからの会費を貴重な財源として、適性に確実に遂行状況がいいかどうかを見させていただきました。公益法人としてしっかりと経理されていました。あとは執行状態を年間計画に関わる予算の部分を的確に決算までに終了していただければよろしいかと思います。

5) 各委員会報告

・活動報告書に追加なし

6) 地区活動報告

・活動報告書に追加なし

7) その他

・活動報告書に追加なし

議 事

1) 事業申請について

①第55回東村山市民産業まつり 健康のつどい

テーマ：都民への放射線医療や放射線に関する正しい知識の普及・啓発活動

日 時：平成28年11月12日（土）～13日（日）

場 所：東村山市役所周辺および天王森公園開催

について審議した。

葛西監事：今回はOTAふれあいフェスタと同日の開催になっていますが、問題ないですか。

長谷川理事：広報委員を二手に人員を分けましたので、その辺は問題と思います。

篠原会長：これは行政側が計画する日程なので仕方ない。広報委員会が大変になりますので、全員でバックアップできればと思います。

【承認：17名、保留：0名、否認0名】

②第62回日暮里塾ワンコインセミナー～入会促進セミナー～

テーマ：学術教育が選んだ平成28年度発表演題

日 時：平成29年1月19日（木）

場 所：東放技研修センター開催

について審議した。

【承認：17名、保留：0名、否認0名】

③平成28年度第5回業務拡大に伴う統一講習会（南関東・東京）

テーマ：業務拡大に伴う統一講習会

日 時：平成29年1月21日（土）～22日（日）

場 所：首都大学東京開催

について審議した。

【承認：17名、保留：0名、否認0名】

④第15回ウインターセミナー

テーマ：散乱線除去補正技術

日 時：平成29年2月18日（土）

場 所：東京医科大学病院 臨床講堂開催

について審議した。

【承認：17名、保留：0名、否認0名】

⑤第16地区勉強会（埼玉県診療放射線技師会第2地区との合同勉強会）

テーマ：埼玉県診療放射線技師会第2地区との合同勉強会（骨軟部セミナー2017）

日 時：平成29年2月18日（土）

場 所：済生会川口総合病院 講堂（B1）開催

について審議した。

【承認：17名、保留：0名、否認0名】

2) ソウル特別市放射線士会と東京都診療放射線技師会との協定書案の件

篠原会長：協定書の案を回覧させてもらっています。さきほど話しましたように、以前ソウル特別市放射線士会と交流していくことが理事会で承認されておりまして、正式な協定書の案です。これには元になるものがありまして、他県放射線技師会が何年か前に協定を結び、文面はほぼ一緒です。ただし、日本語と韓国語の両方を作つて1枚ずつお互いが持ち合うことになっていて、他県を取り交わした韓国語の文を韓国語に詳しい方に改めて日本語に翻訳していただいたところ、一部で韓国語と日本語の意味合いで少し違ったところがあるので手直しをしました。たとえば、こちらで作ったものは「慣例を尊重し」となっていますが、他県の方は「習慣を尊重し」になっていて、もともとの韓国語から訳すと慣例のほうが正しいだろうといったことなど、数カ所を直していますが内容はほぼ一緒です。本日、こちらに関して承認をいただければ年内に正式に調印をするということになっています。具体的な事は書いていないですが、交流する場合はそれぞれの費用はそれぞれ持つ、当然ながら自分たちの費用は自分たちが持つようなことなどは話し合いのなかでは合意をしております。

高橋委員長：来年度から施行されるのでしょうか。

篠原会長：調印をした日からということになります。具体的な活動は来年度からになると思います。ソウル特別市は韓国の中でも広域的で、技師の数も韓国で占める割合は大きく、単独の学術大会も年に一回行っています。東京都診療放射線技師会の場合は関東甲信越として行っています。その辺の立ち位置が少し違うとは思っています。

高橋委員長：今後の予定はまだはっきりとは決まってないでしょうか。

篠原会長：今後お互いの学会に参加し合い同じような立ち位置でできれば理想ですけども、現状では、まずは協定を結んで情報交換をしていくということからスタートするということです。

【承認：17名、保留：0名、否認0名】

3) 委員の新任・変更・退任について

鈴木理事：第13地区から多摩南部地域病院放射線科の圓城寺純夫さんが地区委員として信任をしていただきたいとご連絡をいただきました。最新の地区員名簿での人数として地区委員10人につき1委員という規程内なので問題かと思われます。

【承認：17名、保留：0名、否認0名】

4) 新入退会について

10月：新入会20名、転入2名、退会1名

【承認：17名、保留：0名、否認0名】

地区質問、意見

【第7地区】

日本診療放射線技師会からの要望の中の「参加型臨床実習」という点で、過去に厚労省より実習生のポジショニングはダメだという話がありました。その件について文書化されている記録、資料などがあれば教えてもらいたいです。実習生に対する対応ではなく、医師がボタンを押せば大丈夫という認識のある施設では実習生のポジショニングはダメという点で気になる話題なので、詳しくソースを出したいのですが、この件に関しての記述を見つけることができないので教えてもらいたいです。

篠原会長：これに関しては、日本診療放射線技師会に問い合わせをしましたところ、厚生労働省から正式な形での通知などはないそうです。他県の方で報告があり、患者さんから実習生にポジショニングをされたと訴えがあったときに、厚生労働省の見解としてはX線を照射するかしないかではなく、ポジショニングも一連の撮影業務で実習生がポジショニングを行うのはダメという見解だということです。技師がスイッチを押そうが医師が押そうがそういう問題ではないそうです。ただ、今それを臨床実習は実習生の見学型では良くないと、もっと参加型を認めてもらおうと日本診療放射線技師会の方で要望しているところであります。

連絡事項

1) 広報委員会：長谷川雅一

横浜クイーンズスクエアで例年通り「レントゲン週間」が開催されます。日本診療放射線技師会の方から要請3名ということでしたので広報委員会から榎澤委員、原委員、長谷川委員長の3名が参加させていただきます。

2) 渉外委員会：高野修彰

平成28年度秋の叙勲について、元野村病院の竹中輝和氏が昨日付けで受賞されましたことを報告させていただきます。

篠原会長：竹中さんから本日メールをいただきまして、“本当にありがとうございます。皆さんにもよろしくお伝えください”とありました。今日、都庁での伝達式があり、

出席してきましたという報告でした。まずは、叙勲を受けると都庁で伝達式があり、その後に日をあらためて厚生労働省に集合して、そこから皇居に向かって陛下との拝謁というのがメインであります。その都道府県での伝達式が本日行われました。

3) 経理委員会：関 真一

以前から要望がありました入会案内を、既存のものを修正してPDFとしてお配りましたのでご活用ください。会費滞納退会の候補者のリストをお配りしました。年内まで待って1月の理事会で退会したいと思います。

4) 学術教育委員会：市川重司

連絡事項ではなく、お願いですが、先程の第62回のワンコインセミナーの10演題を今回選びます。毎年発表者には、私の方から各個人に連絡していました。今回から、簡単な方法で良いのですが、できれば地区の方から再発表を出でていただけないでしょうかとお伝え願いたいのです。狙いとしてはなるべく地区の活性化を願って、私が声をかけて地区委員長が知らない間に発表されているというものではなく、地区の委員長が声をかけることにより、顔も知つてもらえるのでは思っております。各地区の委員長の方に〇〇病院の〇〇さんの演題でということで連絡させていただきますので、ぜひご協力お願いしたいと思います。よろしくお願い致します。

竹安委員長：橋渡しをした後は、委員長が連絡係として入るのでしょうか。

市川理事：お願いした後の連絡のやり取りは私の方で行いますので、ファーストコンタクトをお願い致します。

白木副会長：コンタクトを取っていただいて演題を決定するながれでしょうか。

市川理事：そうです。“〇〇で発表しましたよね、東京都診療放射線技師会の方から再発表という企画があがっていますがどうですか？”と伺っていただき、OKの返事であれば私とのその方で実際の依頼状や、当日のスケジュールなどを相談させていただきたいと思います。

5) 厚生調査委員会（代行：石田副会長）

アンケート調査（夜間における撮影業務等について）を12月に行う予定でありますので、皆さまよろしくお願い致します。詳しくは厚生調査委員長よりメール配信があると思います。

その他

・城北支部：11月11日（金）に城北支部研修会を開催致します。医療安全で診療放射線技師で専属の医療安全として關さんがやってらっしゃいます。ぜひ、お時間よろしければ参加ください。懇親会もぜひ参加していただければと思います。

・第3地区：11月25日（金）に第3地区研修会を東京医科大学病院で19時から行います。「私の出会った症例」というテーマで開催致します。事前申し込みがまだ少ない

状況ですので、皆さまご協力お願い致します。

・葛西監事：先日、大阪市民病院のエックス線画像の改竄の記事のメールが来ましたけども、こういうことがありましたというお知らせということでおよろしいですか。

篠原会長：そうですね、そういう倫理的に行ってはいけない事例がありましたということを皆さんに周知させていただきました。

白木副会長：東京都福祉保健局の方から平成28年第1回医療機関における外国人患者対応支援研修の開催についての案内が配信されたと思います。12月6日開催で500人まで無料です。11月29日まで申し込みでまだ少しありますが、ぜひ東京都診療放射線技師会としても国際化の方を対応していく予定になっています。平日の15時からですが、もし参加できる方はお願いしたいと思います。

篠原会長：各医療機関には都庁のほうから送られてきていると思います。職場によって放射線部までおりてきていなところもあるかもしれない思い、本日に配信してもらいました。オリンピックを控えてというよりも、最近、

外国人も多いので都内の医療機関が外国人への対応を今よりもできるようにするために講習会を行うということです。今回は12月開催のお知らせでしたが、1月から2月にもう一回開催すると案内に書いてありましたので、今回の500人定員が一杯になんでも、またチャンスがありますので可能であればできるだけ多くの方に参加していただきたいと思います。

今後の予定について

予定表の確認をお願いします。12月3日（土）に役員研修会があります。皆さまご協力ありがとうございます。まだ全員からご回答いただいているので出欠の返事を後1週間お待ちします。追加の変更は大歓迎ですので、まだ、部屋も空いています。参加のご連絡をいただきたいのと、それまでに来年度の事業計画案のご提出もよろしくお願い致します。

以上

MORIYAMA多目的診断用保持具
Round Foam
多目的診断用保持具・ラウンドフォーム

しっかり安定、ラクラク撮影!
患者さんの負担を軽減し、
撮影の妨げを解消する
「ラウンドフォーム」

MORIYAMA
Round FOAM

ラウンド加工により、
患者さんにもやさしいソフトな感触。
X線撮影時にエッジ部分が
写り難くなりました。

※RoHS指令(特定の有害物質使用規制に関する指令)に対応しております。

MORIYAMA 株式会社森山X線用品
MORIYAMA MEDICAL EQUIPMENTS SINCE 1954
MORIYAMA X-RAY EQUIPMENTS CO.,LTD. <http://www.moriyama-x.co.jp> E-mail info@moriyama-x.co.jp

公益社団法人 東京都診療放射線技師会 研修会等申込書

研修会名	第 回	
開催日	平成 年 月 日() ~ 月 日()	
会員/非会員 (必須)	<input type="checkbox"/> 会員 <input type="checkbox"/> 非会員 <input type="checkbox"/> 一般 ※ 日放技会員番号(必須) [] <input type="checkbox"/> 新卒かつ新入会の方はチェック	
所属地区	第 地区 または 東京都以外 [] 県	
ふりがな		
氏名		
性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性	
連絡先	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 施設 ⇒ 施設名 []	
	TEL (必須)	
	FAX	
	メール (PCアドレス)	
備考		

FAX 03-3806-7724
 公益社団法人 東京都診療放射線技師会 事務所

診療放射線学科専任教員募集

東京電子専門学校

医療・コンピュータ・電子の総合学園、創立70年の伝統と4省認定校

募集対象者：診療放射線技師（臨床実務経験5年以上）、教育経験あればなお可

募集人員：若干名

学校名：東京電子専門学校

住所：〒170-8418 東京都豊島区東池袋3丁目6番1号

待遇：経歴、資格、前給等を考慮して本校規定により優遇

賞与（昨年度実績5.45月）、交通費支給

勤務・休日：9:00～17:00（実勤7時間）、週休2日（土日祭休）休出は代休有、半日有給制度有

社会保険：社会保険完備（私学共済等）

宿舎の有無：なし

応募方法：履歴書（写）、職務経歴書、資格者証のコピー（必要なもののみ）、通勤可能な方、担当できる教科（可能であればお知らせください）

担当者：脇坂 哲夫 E-mail : saiyo@tokyo-ec.ac.jp

TEL : 03(3982)3131(大代表) FAX : 03(3980)6404

JMB 医療スタッフ随時募集中!!

診療放射線技師・看護師・保健師・臨床検査技師・薬剤師・歯科衛生士・管理栄養士

当社は、今迄数多くの病院・医療機関等より要請を承っております。

勤務の内容や時間帯、単発的なアルバイトや転職など、皆さまのご希望に合わせてお仕事をご紹介いたします。

医療スタッフを随時募集しております。ご友人などのご紹介も随時受け付けております。

★まずはお気軽にご連絡下さい。詳しくご説明させて頂きます。

★登録・紹介料は不要です。

★受付時間 平日 9:00～17:30
土曜日 9:00～13:00
(日曜日・祝祭日休み)

株式会社ジャパン・メディカル・ブランチ

フリーダイヤル 0120-08-5801

〒134-0088 東京都江戸川区西葛西6丁目17番5号 TEL : 03-3869-5801

URL : <http://www.jmb88.co.jp> FAX : 03-3869-5802 E-mail : info@jmb88.co.jp

一般労働者派遣事業許可 般13-301371 有料職業紹介事業許可 13-ユ-130023

Postscript

皆様、新年明けましておめでとうございます。編集委員一同、心から新年のお祝いを申し上げます。旧年中は皆様方から大変にご指導、ご鞭撻を頂き、ありがとうございました。

新春座談会からもわかるように、東放技は未来の診療放射線技師像に向かって、新たな一歩を踏み出します。私たち編集委員も、愛され・お役に立つ会誌作りには何を変革したらよいいか、考えながら編集していく所存です。より充実した内容を皆様に提供できるよう努力して参ります。どうか皆様、ご支援くださいますようお願いいたします。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

■ 広告掲載社

コニカミノルタジャパン(株)
(株)ジャパン・メディカル・プランチ
東京電子専門学校
東芝メディカルシステムズ(株)
(株)日立製作所
富士フィルムメディカル(株)
(株)森山X線用品



東京放射線 第64巻 第1号

平成28年12月25日 印刷 (毎月1回1日発行)

平成29年1月1日 発行

発行所 東京都荒川区西日暮里二丁目22番1 ステーションプラザタワー505号

〒116-0013 公益社団法人 東京都診療放射線技師会

発行人 公益社団法人 東京都診療放射線技師会

会長 篠原 健一

編集代表 浅沼 雅康

振替口座 00190-0-112644

電話 東京 (03) 3806-7724 <http://www.tart.jp/>

事務所 執務時間 月～金 9:30～17:00

案内 ただし土曜・日曜・祝日および12月29日～1月4日までは執務いたしません

電話・FAX (03) 3806-7724

編集スタッフ

浅沼雅康

内藤哲也

岩井譜憲

森 美加

高橋克行

田沼征一

山崎綾乃